
○ 議事日程（第2号）

1 一般質問

○ 本日の会議に付した事件……議事日程に同じ

○ 出席議員次のとおり（13名）

1番	小田孝志君	9番	高田佳久君
2番	畔上恵子君	10番	渡辺正男君
3番	小林仁君	11番	山本光俊君
4番	志鷹慎吾君	12番	小林克彦君
5番	塚田一男君	13番	白鳥金次君
6番	湯本るり子君	14番	湯本晴彦君
8番	徳竹栄子君		

○ 欠席議員次のとおり（なし）

○ 職務のため議場に出席した議会事務局職員の職氏名次のとおり

議会事務局長	鈴木明美	議事係長	湯本寿
--------	------	------	-----

○ 説明のため議場に出席した者の職氏名次のとおり

町長	平澤岳君	教育長	竹内延彦君
副町長	久保田敦君	こども未来課長	望月弘樹君
総務課長	古幡哲也君	生涯学習課長	田村清志君
未来創造課長	堀米貴秀君	産業振興課長	宮崎弘之君
危機管理課長	田中治幸君	建設水道課長	高木和彦君
住民税務課長	湯本豊君	消防課長	湯本睦夫君
健康福祉課長	小林佳代子君	会計管理者	小林知之君

(開 議)

(午前10時00分)

議長(湯本晴彦君) おはようございます。本日はご参集いただきありがとうございます。

ただいまの出席議員数は13名です。したがって、会議の定足数に達しておりますので、本日の会議は成立しました。

これより本日の会議を開きます。

1 一般質問

議長(湯本晴彦君) 本日は、日程に従い一般質問を行います。

今回の一般質問には全部で9名が通告しております。

質問は、町行財政全般にわたって事務事業の執行や取組の状況、町政に対する施政方針について所信をただし、あるいは疑問点の説明を求めるものであります。単なる事務的な見解をただすにすぎないものや制度の内容説明を求めるものなどを避け、大局的見地から建設的な議論と簡明かつ内容のある質問の展開を期待しております。

質問時間は1人25分です。質問者は25分以内に質問を終了するようお願いします。質問時間の終了の予告は、終了2分前と終了時に行います。また、質問は登壇して行っていただき、再質問は質問席で行ってください。

次に、理事者、管理職の皆さんにお願いします。質問に対する答弁は、要旨を十分把握され、簡潔、明瞭にお願いいたします。

また、反問権の行使は、再質問時に認めます。議員の質問に対し反問される場合は、必ず発言前に「反問します」と声をかけた上で反問してください。

本日の一般質問は、4名執り行います。質問通告書の順序に従い質問を許します。

4番 志鷹慎吾君の質問を認めます。

4番 志鷹慎吾君、登壇。

(4番 志鷹慎吾君登壇)

4番(志鷹慎吾君) おはようございます。

ここに立ちますと、議員になって1年、そして昨年の6月は初めての一般質問ということで、若干、ちょっと苦い思いは頭をよぎりますが、また新たな気持ちで頑張っていきたいと思いません。よろしく申し上げます。

さて、3月に総合型地域スポーツクラブ「やまのうちスポーツクラブ」が設立し、4月よりスタートしました。総合型クラブの推進は、今日ではスポーツ行政の柱でもあり、地域スポーツの充実はもとより、行政の効率化、地域活性化にも大きく役立つものと考えます。近年、日本の社会において取り巻く生活環境の変化により、少子化、高齢化、教育及び医療の分野を中心に深刻な影響が見えてきており、また地域コミュニティの希薄化も社会問題となっております。私たちの住む山ノ内町においても例外ではなく、同じ問題が進行しています。

一般にスポーツに参加する人々は、スポーツというある種のコミュニケーションツールを通

じて得られる効果、利益、交友など、便益があり、スポーツ活動はその便益が個人のみならず、集団や地域社会全体にもたらしてくれるものと思います。これはスポーツを楽しみながら適切に継続することで生活習慣病の予防改善、さらには介護予防、健康寿命の延伸や社会全体での医療費抑制への貢献が期待でき、活力と魅力のあるまちづくりに寄与するものと思います。

クラブ経営は、クラブが主体となり行うのが理想かと思いますが、まだ始まったばかりでもあり、行政の関わりなしでは成り立たないと思います。行政もクラブも同じスポーツ振興を推進する立場として連携、協働していかなくてはなりません。行政は的確な助言、情報の提供、施設使用面での便宜を図るなど、側面的な支援は最大限実施するべきかと考えます。山ノ内にしかない資源を生かして、地域スポーツの振興のみならず、観光局、生涯学習課などとタイアップし、スポーツを通して活気のある地域づくりを行う必要があると考えます。

スタートしてはや2か月が過ぎ、これからまだまだ成長していくことと思いますが、クラブとの関わり、町としてのビジョン、この辺をしっかりと聞いてみたいと思います。

それでは、通告書に従い、質問をしたいと思います。

1、総合型地域スポーツクラブの将来ビジョンについて。

(1) スポーツクラブの現状は。

① 会員数、施設、財源は。

(2) 現在のスポーツクラブは地域住民のニーズに十分応えているか。

① 現在の教室は増やすのか。

② 教室運営以外の計画はあるのか。

(3) 会員数を増やす施策は。

(4) 学校部活動との良好な連携は。

(5) 既存の少年団やクラブとの関係は。

(6) スキー・スノーボードクラブについて。

① 志賀高原スキークラブとの関わり方は。

② スノーボード、フリースタイルスキーなどのクラブ創設は。

(7) トップアスリートの育成は。

(8) 具体的な施設の構想は。

① やまびこ広場、上林の運動施設の利用方法は。

② フィットネスジムは造るのか。

③ キッズ・ジュニアの環境、施設は。

(9) 海外との友好都市提携をしているが、今後スポーツ交流などはあるか。

2、法人化について。

(1) クラブ運営の主体は。

(2) クラブ運営に係る支援体制の整備は。

(3) 場所や施設、財源、人材確保と育成は。

(4) 広報活動と全国的なイベント創設は。

(5) 行政や体育協会との役割分担は。

再質問は質問席でさせていただきます。

議長(湯本晴彦君) 答弁を求めます。

平澤町長、登壇。

(町長 平澤 岳君登壇)

町長(平澤 岳君) おはようございます。

志鷹慎吾議員の質問にお答えいたします。

山ノ内町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会は令和6年3月に設立総会を開き、4月からやまのうちスポーツクラブとして山ノ内町及び近隣自治体の住民にスポーツ活動を奨励するとともに、いつでも、どこでも、誰でも、スポーツに親しめるよう総合型地域スポーツクラブとして活動を通じて、活力と魅力あるまちづくりに寄与することを目的に設立されました。

ご質問の大きな1の(1)から(5)及び大きな2の法人化については現状等の説明となることから、後ほど教育長から説明させます。

ご質問1の(6)からは、スポーツクラブの将来ビジョンですので、私の考え方を述べさせていただきます。

(6)のスキー・スノーボードクラブについて、①志賀高原スキークラブとの関わり方とはのご質問ですが、私の時代もそうでしたが、当町は、歴史的にも志賀高原スキークラブがスキー選手たちをサポートしてきております。今後、町スポーツクラブと志賀高原スキークラブがどのような関係性をつくっていくかは、今後の両者の協議によるものと思います。まだスポーツクラブ自体もこれからですので、関係者でしっかりと話し合いを行い、役割分担をすることで、日本最大のスキー場である志賀高原や北志賀高原のある町として、子供へのスキー普及や選手育成、選手サポート、大人の愛好家の取り込みなど、幅広いスキー文化を醸成してまいりたいと思っております。

②のスノーボード、フリースタイルスキーなどのクラブ創設については、我が町の国際交流都市であるベイル町にはベイルスキー・スノーボードクラブがあり、アルペンだけではなく、スノーボードもフリースタイルもオリンピック選手を輩出しております。当町としてもアルペンスキー、クロスカンリースキーだけではなく、スノーボードやフリースタイルのクラブも将来必要だと考えておりますので、今後、志賀高原スキークラブとも話し合う中で、山ノ内町として何ができるのかを模索してまいりたいと思っております。

(7)のトップアスリートの育成にはについては、まずスポーツクラブは、事業としてスポーツ教室運営、スポーツクラブ運営、そしてスポーツ施設運営の3つの柱を主となる事業として計画しています。その2つ目に上げたスポーツクラブ運営事業の中では、子供はスポーツを楽しめ、プロは世界を目指せるようなクラブ環境づくりを行いたいと思っておりますが、どのような種目がそれに該当するかなどは、今後スポーツクラブの運営理事会などで検討してもらえ

ればと思っております。

(8) 具体的施設の構想はの①やまびこ広場、上林の運動施設の利用方法についてはお答えします。やまびこ広場はこれからもバージョンアップさせていきたいと思っており、芝生の張り替えなども含め、現在検討中です。今後もスポーツ教室などでの活用は広がることと想定しております。上林の運動施設については現在、あまり検討はできておりません。

②フィットネスジムは造るのかですが、スポーツクラブからはアイデアとして出ておりますが、ターゲットやコンセプト、収支案などの事業計画ができておりませんので、私はまだゴーサインは出しておりません。町民の方々でも中野のジムに通っている方が多いと聞いておりますので、将来的には町民の健康管理、トレーニングの場にもなり、選手の利用もあれば、施設の利用頻度もそれなりになると思いますので、前向きに検討すべきものだと思っております。

③キッズ・ジュニアの環境、施設はとのご質問ですが、キッズ・ジュニアだけの何か施設ということは現在の人口減少、少子高齢化の中で町としては考えるべきではないと思っております。しっかりニーズを捉え、子供から大人まで、お年寄りからプロまでを対象としつつも、造るべき施設は集中と選択をしまいたいと思っております。

(9) 海外との友好都市提携をしているが、今後スポーツ交流などはあるかについてですが、現状アメリカ、ベイル町と中国、密雲区と友好都市提携をしており、新たにフランス、サンジェルベ市と友好都市提携の検討に入っております。ベイル町にはオリンピック選手を輩出しているスキー・スノーボードクラブ、ベイルがあり、総予算12億円規模で運営されており、ダウンヒルからスラローム、モーグル、ハーフパイプ、スロープスタイルまでできるゴールドエンピークという山一つ丸々アスリート向けになっているぐらい、すばらしい練習環境をつくっています。山ノ内町のスキー部の子供たちにもエクステンジでトレーニングに行ければよいと思っておりますので、将来的にはスポーツ交流などにも発展させていきたいと思っております。

以上となります。

議長（湯本晴彦君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） それでは、私からは大きい質問1の（1）から（5）、そして2の法人化についてご答弁を申し上げます。

まず、大きい1、総合型地域スポーツクラブの将来ビジョンはの（1）スポーツクラブの現状は。①会員数、施設、財源はとのご質問にお答えいたします。

やまのうちスポーツクラブは、スポーツ教室とクラブチームの運営、そしてスポーツトレーニング施設開設の3つの柱を軸として事業を進める計画ですが、現在はスポーツ教室を中心に事業展開しており、5月15日現在、13あるスポーツ教室の会員数は延べ86名、これは中学生以下が84名、高校生以上が2名でございます。施設は東小学校、西小学校、やまびこ広場、文化センター等の町内施設を利用しています。主な財源は会員からの会費とスポーツ振興くじ助成金です。

次に、（2）現在のスポーツクラブは地域住民のニーズに十分応えているか。①現在の教室

は増やすのかとのご質問ですが、現在13種目の運営を行っていますが、種目の追加については、ニーズの有無や指導者による定期的な開催の可否、活動中の安全対策が担保できている教室なのかなどを総合的に判断しながら、追加をしていく予定でございます。

②教室運営以外の計画はあるのかにつきましては、今後の事業の柱としてクラブチーム運営、スポーツトレーニング施設の開設について準備中ですが、スポーツトレーニング施設については、よませ活性化センター等の町有施設が利用できるかどうか、検討しています。クラブを創設したばかりの今年度は、スポーツ教室の運営の安定化を優先し、クラブチーム運営やスポーツトレーニング施設の事業展開については、令和7年度以降で推進していく予定でございます。

次に、(3) 会員数を増やす施策はとのご質問ですが、まず、スポーツクラブの活動紹介リーフレットを4月に町内全戸及び各小学校に配布し、口コミやSNSで会員数を増やす努力をしています。今後はクラブの特徴を積極的に発信しながら会員数を増やしていきたいと考えております。

次に、(4) 学校部活動との良好な連携はとのご質問ですが、各施設の利用については学校の部活動と競合しないよう、配慮しながら運営していますが、活動自体の連携は行っておりません。現在、部活動の地域移行の議論が進んでおりますが、既存のスポーツ団体等が地域移行の受皿になれない部活、クラブについては、やまのうちスポーツクラブがその受皿となれるかどうか、関係者と連携しながら協議を進めていく予定です。

次に、(5) 既存の少年団やクラブとの関係はとのご質問です。スポーツ少年団からキッズバレー教室と空手教室へは指導者を派遣していただいております。

次に、大きい2、法人化について、(1) クラブ運営の主体はとのご質問です。今年3月に団体として設立されたやまのうちスポーツクラブが主体となります。

次に、(2) クラブ運営に係る支援体制の整備はとのご質問です。やまのうちスポーツクラブは地域住民を中心に構成されている理事会と地域住民の参加によって運営されている組織ですので、地域に根差したクラブの活動が今後さらに活性化するよう町行政も連携を図りながら支援体制の整備を模索してまいります。

次に、(3) 場所や施設、財源、人材確保と育成はとのご質問です。場所や施設につきましては、今後事業の柱となるクラブチーム運営、スポーツトレーニング施設を検討する中で、よませ活性化センターをはじめとする町有施設の活用を模索してまいります。施設整備に伴う財源につきましては、補助金の活用を模索しています。人材確保と育成につきましては、町内外の指導者が無理なく関わることでできる環境を整えることが、人材確保のためには重要であると考えます。少額の報酬や旅費のみで運営を続けるような状況では、新たな人材を確保し、育成することは難しいと考えております。

現在、スポーツ振興くじ助成金より定期的、継続的なスポーツ教室の開催への補助である自立支援事業とクラブマネジャーによるクラブマネジメントの強化及び公共性の向上を図る事業への支援である設置支援事業の補助を活用しながら運営していますが、今後、補助金だけでは

安定した人材確保は困難であると予想されることから、企業スポンサーや町からの支援も開拓しながら、より安定的な人材確保と育成を図ってまいります。

次に（４）広報活動と全国的なイベント創設はとのご質問です。広報、PR活動はクラブ利用会員の募集はもちろんのこと、クラブの認知を高めるためにも積極的に取り組むことが重要であり、町、体育協会、自治会や企業などへの情報提供と協力支援等のお願いを進めてまいります。

なお、全国的なイベント創設については山ノ内町の魅力を広く発信する絶好の機会となりますので、前向きに研究してまいります。

次に、（５）行政や体育協会との役割分担はとのご質問ですが、やまのうちスポーツクラブと町並びに体育協会とは、体育施設等の利用において密な連携を図りつつ、クラブとして主体性を大切にしながらも、運営の安定化に向けては町や体育協会への支援要請を必要に応じて進めていただきたいと思います。町は、クラブ利用する施設の多くが行政の管理下にあることからクラブの相談に応じながら、支援する役割になると考えます。体育協会はクラブの指導者を確保する場合に各競技団体を紹介したり、スポーツイベントを共催したりしながら会員募集のサポートなどが可能であると考えますので、引き続き関係団体と連携しながら事業展開を進める必要があると考えます。

今後の法人化に向けた事業展開は、やまのうちスポーツクラブが主体となって推進することが重要不可欠ですので、クラブ理事会の意向を最大限尊重しながら、町並びに関係機関が密に連携しながら、安定した体制づくりを着実に進めてほしいと考えております。

以上でございます。

議長（湯本晴彦君） 再質問を認めます。

志鷹議員。

４番（志鷹慎吾君） まず、スポーツクラブの現状はというところで、会員数、施設、財源はというところをちょっとお聞きしたいと思いますけれども、現在13教室、延べで86名と伺っています。財源としては、会費、それからスポーツくじというようなところからなっていますけれども、そのスポーツくじも5年が期限と聞いていますし、年ごとに利率が下がってくると聞いています。あまりゆっくりしていると本当に財源が厳しくなって、それこそ教室も難しいというような状況に陥るんじゃないかと思っています。そのあたりは、どう考えていますでしょうか。

議長（湯本晴彦君） 生涯学習課長。

生涯学習課長（田村清志君） おはようございます。

志鷹慎吾議員のご質問にお答えします。

先ほど、志鷹議員からお話がありましたとおり、財源というのは限られています。また、年々減っていくことが予想されますので、先ほどの答弁でありました企業さんからの寄附ですとか、そういったものを重点的にやってまいりたいなと思っています。

それで、今現在のクラブへの補助なんですけれども、クラブ全体の予算なんですけれども、780万5,000円、そのうち町からの補助、これはtotoからの補助も含むんですけれども、456万円が令和6年度の予算額となっております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 志鷹議員。

4番（志鷹慎吾君） ちょっと飛んでしまうんですけれども、スポーツクラブの経営のことになってくるんですけれども、先ほど言っていた教室とクラブチーム、それからジムの経営という3本柱でいくと先ほどおっしゃっていましたが、教室の安定化というのはやはり会員数を増やすという意味合いでよろしいでしょうか。

議長（湯本晴彦君） 生涯学習課長。

生涯学習課長（田村清志君） そのとおりだと思います。

チラシ、パンフレットを配って、町民の皆さんに通知しているわけなんですけれども、それでも口コミが重要かと思しますので、SNSとか、そういったものを活用する中、広く住民の皆様はこのスポーツクラブの存在、また活動について周知してまいりたいと思っております。それによりまして会員を増やしていくと、そういう努力をしていきたいと考えております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 志鷹議員。

4番（志鷹慎吾君） 先ほど会員数を増やす施策はというところで、パンフレット配布、それから口コミ、SNSを利用して広く告知していきたいとおっしゃって、あと、特徴のあるということもおっしゃっていたんですけれども、今現在、やまのうちスポーツクラブのホームページを見ると、例えば大人のボクシング教室があるんですけれども、開くと、イメージとして、グローブが飾ってあるような写真、その下に一応参加に当たっての案内が書かれていると思うんです。そこには中学生以上、毎週火曜日、20時から21時、文化センター、そして指導者の方のお名前が書かれていて、その下に飲物、タオル、これしか書いていないんです。これだと、やはり特徴という意味では全く何が何だか分からない。参加してみようという気にはちょっと難しいのかなと思うんですけれども、ここに参加されている方で、これから例えばテレビで見るようなライト級だとか、ミドル級だとかというボクシング大会に出るというのは、本当の目的にはしていないと思うんですけれども、基本的には、こういった教室、ボクシング教室であれば、ボクシングというのは手段であって、もちろん健康促進、生活習慣病の予防とか、そういったものの目標はあると思うんです。そのほかにもっとニッチな層に訴えるほうがいいんじゃないかと思えます。

私ごとなんですけれども、数年前にボクシングジムに数か月通ったことがあります。きっかけは、家内がダイエットをしたいということから、一緒に行こうということで実際に参加したわけなんです。皆さんの記憶の中でもちょっとあるかと思えますけれども、一時その頃、ボクシングでダイエットみたいものがちょっとはやりまして、それに乗じてというか、それで通っ

たという感じではあります。

ボクシングは全身運動で、インナーマッスルも鍛えられて、特に体をひねるという運動が非常に大切だというのをそのときは感じました。たまたまそこに通っていたときに、そこで知り合った男性から聞いたんですけれども、体の回転運動になるということで、ゴルフも非常にいいと、その方は20ヤード伸びたという話も聞いています。周りの男性の方に聞くと、やはり目的は実はゴルフだったということです。

結局、ボクシングという、そういったものを手段として、実はニッチな層には違う目的があるということだと思えます。例えばボクシングでダイエットとか、やはりもっともっとターゲットを絞り込んで、ターゲットにある目的、この場合だとダイエットになりますけれども、それを様々なメディアでニッチな層に伝えていく。そして最適なタイミング、例えばダイエットでしたら夏に向けてという感じで春先からやるような、そういうもっともっとニッチな層に向けてのアピールをしていくべきだと思いますが、いかがでしょうか。

議長（湯本晴彦君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） ありがとうございます。

大変参考になるお話をお聞かせいただいたと思います。

議員ご指摘のとおり、やはりどれだけ、ただボクシングというだけではなく、よりその周辺で関心を持ってもらえるか、キャッチーな呼びかけ文であったりとか、そういったことをしっかり研究しながら、できるだけ何というんですか、より多くの方々に目を向けていただけるような、そんな工夫をしていきたいと思えます。ありがとうございます。

議長（湯本晴彦君） 志鷹議員。

4番（志鷹慎吾君） また、ちょっと飛んでしまうかもしれないんですけれども、学校部活動との良好な関係、連携というところで、いろんな考え方、それから受皿となるところはいろんな方法があるんじゃないかなと思うんですけれども、特に既存のクラブ、団体に関して言えば、それぞれの形、最適な形ができるように柔軟に受皿となるところをやっていくべきだと思います。特に、スノースポーツの盛んなところ、それからスノースポーツの環境という意味では、日本一の環境がそろっているんじゃないかと思っていますので、先ほど町長も言っていましたけれども、スキークラブとの話し合いの中でしっかりとそのあたり聞きたいと言っています。ただ、やっていきたいというふうに言っているだけで、じゃ、具体的にいつとかという期限というんですか、いつぐらいにどのようなプロセスを踏んで、いつ頃そういうふうな形にするのか、受皿となって形になっていくのかという、いつという期日について、もしそういう計画があれば教えていただきたいと思えます。

議長（湯本晴彦君） 生涯学習課長。

生涯学習課長（田村清志君） やまのうち総合スポーツクラブ、これについてもまだ始まったばかりでこれから検討していく中で、早めの移行ができればいいのかなと思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 志鷹議員。

4番（志鷹慎吾君） いつという非常に限られた、限ってしまうと非常に難しいとは思いますが、けれども、やはりスピード感を持ってやっていていただきたいと思っています。

それから、具体的な施設の構想は、やまびこ広場がバージョンアップしていくというようなことを言っておられました。それから、ジムに関して言えば、夜間瀬の活性化センターという話もありました。ただ、児童というか、子供が通うには少し離れているんじゃないか、遠いんじゃないかなと思うんです。離れた場所で行うことになれば、送迎も必要になりますし、家庭の都合によっては送迎が難しい場合もあると考えます。経済状況、それから家庭環境を理由に参加できなくなるような子供たちというのも出てくるんじゃないかと思えますけれども、そのあたりに対してはどういう考え持っていますでしょうか。

議長（湯本晴彦君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） ありがとうございます。

議員ご指摘のように、子供たちの交通の便は十分に配慮しなければいけないと思っております。スポーツジム、今現状、仮によませ活性化センターを検討はしておりますけれども、具体的な事業計画等はもうちょっと詰めていかないといけないですし、その際には例えば送迎の問題も十分重要的なテーマになってくると思います。ですので、子供たちが安全に通える、そういった送迎の仕組みであったりとか、あとはジムとしてしっかり自立に向けて経営できる、そういった事業計画を早急に検討を進めてまいりたいと思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 志鷹議員。

4番（志鷹慎吾君） それに付随することなんですけれども、（8）の具体的な施設の構想はというところで、③のところのキッズ・ジュニアの環境はというところで、まだちょっと考えはないとお話をいただいたんですけれども、昨年、私6月に非認知能力、認知能力の話をちょっと大分してしまったんですけれども、その際に、非認知能力というのは3歳から6歳頃に始めるべきであって、やはり12歳ぐらいまでに完結してしまうので、やはりその幼児期というのは非常に大切になるんじゃないかと考えているところなんです。

このご時世、共働きが非常に多いということも含めて、親御さんが一緒にそこに通えるような施設はやはり考えるべきだと思います。もう少し話を進めていくと、そこに例えばワーキングスペースのような、仕事ができるような環境を整えることによって、やはりお子様を見ながら、仕事ができるということも含めて、非常に大切な場所になるんじゃないかなと思いますし。

もう少し話を広げると、保育園留学というものがありまして、保育園留学というのは、ほかの地域から1、2週間、お子さんと家族なり親御さんが来て、保育園に留学するというようなものです。子供にとっては大自然の中で触れて、健やかに育つ環境で過ごせることができ、先ほど言ったワーキングスペースみたいなものがあれば、家族も仕事と子育てをしながら、

例えば山ノ内を見られるというようないいことがあります。これというのは、そんなに古い政策ではないんですけれども、三、四年前に北海道の厚沢部町というところがやり始めたんですけれども、今大体全国で80ぐらいの自治体でやっているような政策なんですけれども、厚沢部町では3組の移住があったとなっていますので、やはり幼児期のそういう環境、遊び場、そういったものを整えて、さらには移住にもつながるような、そういったことも考えられると思うんですけれども、そのあたりはどう考えているでしょうか。

議長（湯本晴彦君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） ありがとうございます。

議員おっしゃるとおり、幼児期からの非認知能力の向上という部分は今本当に全国的にも注目されていますし、私自身もこの数年間、大変重要なものだとの認識をしております。教育委員会としては、本筋とすれば、今年から保育園、保育行政も教育委員会に入りましたので、公立の保育園や町内には私立の幼児施設もございますので、そういったところでぜひ幼児期からの外遊びやいろんな体験活動を通じた非認知能力の向上に、しっかり取り組んでいきたいと考えております。

将来的に、このスポーツクラブにもそういった幼児期の教室ができれば、当然そういったような観点でいろんな連携もできるかなと考えておりますので、引き続き、その非認知能力をテーマとした研究は続けてまいりたいと思います。

ありがとうございます。

議長（湯本晴彦君） 志鷹議員。

4番（志鷹慎吾君） 法人化についての（3）についてなんですけれども、もう少し話広げていくような形でちょっとお話しさせてもらいたいです。やはりしっかりと経営、教室の安定化とか、クラブチームとの連携、それからジムの経営をしっかりとやっていかないと、育つものも育たない。できるものもできないという形になるので、ぜひ頑張ってもらいたいと思うんです。特に人材確保というのは非常に大切だと思います。環境も含めて、指導者が本当にその方が適切かどうかということによって、やはり伸びるものも伸びなくなるような気がします。

最近ニュースでよく、サッカーの長谷部さんがドイツで現役を引退されて指導者の道に行くというような話、報道されているのを皆さんご存じかと思います。ドイツの場合には地方のそういった指導者の試験があつて、州のそういった指導者の検定、それで長谷部さんは多分トップでやっていますので、この次、国の国家検定になるんですけれども、国の資格を取っていくという話になっていると思います。日本も同じような、そういった資格というものが同じようにできて、国家権利ではないんですけれども、例えば日本スポーツ教会で公認スポーツ指導者資格を認定して、発行している団体があるんですけれども、そこはその指導者はそれぞれの年齢に合わせた様々なスポーツ活動、その推進、社会生活において、スポーツの価値を高めることで貢献できる指導者の育成を目的につくられたという団体であります。こういったしっかりとした指導者を見つけることもそうなんですけれども、町からそういう人材を育てることも考

えなきゃいけないんじゃないかなと思うんです。そのことについてはいかが考えていますでしょうか。

議長（湯本晴彦君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） ありがとうございます。

もう、申し上げるまでもなく、指導者は極めて重要な存在だと認識しています。

学校において、教師が教員免許がなければ教壇に立てないのと同じように、その資質や技量をしっかり担保する意味で、そういった資格を軽視してはいけないと思っておりますし、特にスポーツにおいては安全面への配慮ということ、あと子供たちの発達に関する理解、そういったことも極めて重要なテーマで、しっかり学んでいただいている方が適切に指導することが本当に重要だと思っております。

ですので、そういった方々を探していくことはもちろんですし、議員がおっしゃったとおり、そういった方を町としてもしっかり育成できるような、そういった仕組みづくりは重要であるというふうに、私自身も思いますので、今後の重要な研究テーマとしていきたいと思っております。

ありがとうございます。

議長（湯本晴彦君） 志鷹議員。

4番（志鷹慎吾君） アスリートを育成というところにちょっと入ってくるんですけども、私はやはりスキーをやっていたんですけども、指導者も取り巻く環境も非常に大切だと感じてやっていました。

その中で、ちょっと飛躍してしまうかもしれないんですけども、スポーツ科学というものも少し考えていかなきゃいけないんじゃないかなと思うんです。というのは、やはりスポーツ科学、トップアスリートだけじゃなく、一般の方や障害者の方、シニアまで対象にした健康管理やスポーツ障害、外傷の予防、応急処置、リハビリテーション、それから体力トレーニング、コンディショントレーニングなども多岐にわたってやる研究課題に取り組んでいるような、そういうところなので、例えば大学なんかでもスポーツ健康科学とかという学部があるんですけども、そういう学部を例えば誘致するかということも一つ考えられるんじゃないかなと思うんです。それによって、より身近でコミュニケーションが取れるような環境があることによって、とても町民に対しても、それからトップアスリートを育てるということも含めて、特にここはスノースポーツに関していえば、日本一の環境が整っていると思っておりますので、そういったことも考えてはどうかと思うんですが、いかがでしょうか。

議長（湯本晴彦君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） 今のご質問の内容については、私自身はちょっとその専門外なので、あまり逆に詳しいことが分からないので、一般論でのお答えになってしまうかと思っております。どの分野であっても、そういった今専門性を高めていくということ、その専門機関と連携しながらということは、極めて重視されていると思っております。この山ノ内町の環境を最大限に活用するといった点で、そういった大学等専門の研究機関と連携をしていくという発想は、とても大事だ

と思いますので、また大変大きな課題でございますので、よく町とも協議しながら検討ができたらと考えます。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 志鷹議員。

4番（志鷹慎吾君） 誘致に至らなくても、やはり連携をしていってほしいなと思います。

例えば、実際にあったのは、スキーのジャンプです。彼らはやはりこういうふうな機関で、手の開き方、それから抵抗値なんか、実際に図って飛距離を伸ばしているという実績というものがあるので、やはりそういったことというのは完全にトップアスリートを育てるという意味では無視できないんじゃないかなと思うので、ぜひ、前向きに検討していただければと思います。

最後になりますけれども、いずれにしろ、町民の方がいろんな目的で教室、差し当たってはしっかりと活用して健康等に重視できるような環境を整えるようにぜひお願いしたいと思います。そして、それに対して町は十分にアンケートなどを、それから町民の声をしっかりと聞いた上で、全部に応えるのは非常に難しいかもしれないですけれども、なるべく多くの方に応えられるような形で進めていただければと思って、これで私の質問は終わりたいと思います。

議長（湯本晴彦君） 4番 志鷹慎吾君の質問を終わります。

ここで議場整理のため、11時まで休憩します。

（休憩） （午前10時47分）

（再開） （午前11時00分）

議長（湯本晴彦君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議長（湯本晴彦君） 1番 小田孝志君の質問を認めます。

1番 小田孝志君、登壇。

（1番 小田孝志君登壇）

1番（小田孝志君） おはようございます。

1番 小田孝志、創門会です。

昨年6月に議員となって1年になります。もはや新人議員とは言っていただけません。緊張感を持って、かつ、初心を忘れずに引き続き頑張っていきたいと思います。

今日の一般質問は、主たる質問は経済の活性化ということにしております。そのような関係で質問の前に記事を2つほど紹介し、質問に入っていきたいと思います。

1つは、ビッグマック指数というものです。これは、M社のハンバーガー会社のビッグマックという食べ物がありますが、それが世界各国同じ品質で売られている中から、この販売価格を比較することで、物価の水準、購買力等の経済状況を比較するという指標として使われるものでございます。ただ、ビッグマックの販売会社、M社については、国によって数、それから

その国の会社の販売戦略等によって価格に差があることは事実なので、参考ということでお聞きいただければと思います。

日本のビッグマックが450円、一番高い国がスイス、これが1,207円です。アメリカが9位で841円、オーストラリアが14位で750円、シンガポールが18位で733円、韓国が31位で607円、タイが37位で559円、中国が43位で513円、日本はその下の45位の450円となっております。海外の方が来てラーメン2,000円は安いなと言うのが何となくこれを見ると分かるなという感じを受けております。

続きまして、6月2日日曜日に、官公庁の宿泊旅行統計という1次速報が出ました。これによると、「外国人宿泊客、4月最多更新」という大見出しがありまして、国内のホテル、旅館に泊まった日本人と外国人は、前年同月比12%増の5,095万人、そのうち外国人は38%増の1,314万人、2か月連続で最多記録を更新、外国人の割合は4人に1人となった、こんな記事がございました。私も実は4月の中旬に夫婦で一泊旅行、京都に行ってきました。この時期は桜も散って比較的客が少ないと言われておったんですが、大変混雑しておりました。外国人がほとんどでした。日本人といえば、修学旅行の学生ぐらいしか見えませんでした。

ちなみに泊まったホテルは、私たち以外は全て外国人だったと思います。山ノ内町の令和5年度の観光客の入り込み客が368万人という数字が出ております。令和4年度が319万人、15%ほど増えて、令和元年度、コロナ前には432万人、少しずつ近づいてきたということでございますが、この入り込み客のオープンにしてある表がありますが、平成2年度が985万人、現状では4割だということでございます。観光の消費額を見ると、令和5年度が205億円、平成2年度が532億円ということでございます。

ご承知のとおり、観光産業は経済波及効果が非常に大きい産業です。まだまだ工夫と努力次第で伸び代はあると思っております。町を挙げて、観光の活性化に向けて頑張りたいと思っております。そんな中で、通告書に従って一般質問を始めたいと思っております。

1、経済の活性化について。

- (1) ふるさと納税額は前年度と比べてどうか。
- (2) 宿泊税導入についての動向は。
- (3) スキー場の現状、課題に対して町としてどう関わっていくのか。参考となる事例はあるか。また国・県の動向は。
- (4) 湯田中駅前の活性化、(再開発)に向けて、現状の課題、今後の取組は。
- (5) 自然エネルギーの普及について。

①可能性と問題点は。

②マイクログリッド構想についての見解と実現化に向けての検討は。

2、夏まつり山ノ内どんどんについて。

- (1) 昨年の反省点は。
- (2) 今後の予定は。

3、来年の町制施行70周年に向けて。

(1) 記念式典、イベントの考えは。

以上です。

なお、再質問は質問席にて行います。よろしくお願いします。

議長（湯本晴彦君） 答弁を求めます。

平澤町長、登壇。

(町長 平澤 岳君登壇)

町長（平澤 岳君） 小田孝志議員の1つ目の経済活性化に係るご質問にお答えします。

ふるさと納税額は前年度と比べてどうかのご質問ですが、令和5年度の寄附件数は6,567件、寄附金額は3億8,867万4,000円で、令和4年度に比べ件数は474件、7.7%の増、金額は4,842万2,000円、14.2%の増となりました。この実績には、ガバメントクラウドファンディング分の1,542万円を含んでおります。

日本全体でふるさと納税の利用者が増えていることや、新たに導入した現地決済型のふるさと納税、旅先納税による成果と分析しております。

(2)の宿泊税導入についての動向はとのご質問ですが、新たに観光振興財源として、宿泊税の導入については、令和5年度12月議会においてもご質問いただき、お答えしておりますが、長野県では今年4月に県観光振興審議会から知事に観光税の件で答申が行われ、宿泊税導入について適当であると示されました。当町にとって観光産業は大きな産業の柱であり、地域の課題解決、観光地の維持発展のために観光税の導入について検討をする必要性があると思っております。昨年12月に町内の観光団体との懇談会を開催しました。

観光団体関係者からは、県が導入も検討しているのであれば、町独自の税制度を導入すべきとの意見もいただきました。このため、今後、町観光税の導入に係る検討委員会要綱を制定し、県内において独自税制度導入を検討している白馬村、阿智村、軽井沢町、当町の4町村と松本市を交えて意見交換を重ねる中で、検討委員会を開催していきたいと考えております。

(3)スキー場の現状、課題に対して、町としてどう関わっていくのか、参考となる事例はあるか。また、国、県の動向はとのご質問ですが、スキー場の現状としましては、コロナ化を終えて、2023年、2024年、シーズンはインバウンドをはじめ、利用者数は増加しておりますが、温暖化や雪不足による営業日数の減少、索道施設やスキー場施設の老朽化、スタッフの人手不足問題等の様々な課題に直面しております。当町のスキー場はあくまでも民間経営ですので、我々町としてできることの一つとして、人手不足から来るサービス低下を防ぐための対策として、求人求職マッチングシステムの導入を進めております。それに加えて、観光局を中心として、特定地域づくり事業協同組合制度の活用を検討を進めることで、人材不足を少しでも解消できるように努めてまいります。

索道施設やスキー場施設の老朽化に対しては、先日もメガバンクの役員やコンサル会社、投資家の方々とも話しております。民間の施設に対して、自治体がどのようなことができるの

か、まだ明確には見えていない状況ですが、様々な可能性を模索してまいりたいと思っております。

参考となる事例として、北海道のニセコでは、観光DX化を進めており、例えばシャトルバスの位置情報、レストラン混雑度、駐車場情報の可視化などを進めております。そのほかにニセコでは、隙間バイトのタイミーとのタイアップをしたり、タクシーのGOと連携をして、タクシー不足の解消へ向けた取組などをしております。どれもが地域のDMOが主体となり、観光税を財源として進めているようです。札幌市では、過去に市内のスキー場に市がリフトを建設し、そのリフトを民間のスキー場運営会社が運用している事例もあるようです。

国の動きでは、令和2年度より観光庁がスキー場へのインバウンド需要を高める目的から、国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業補助制度を設けて、スキー場のインフラ整備への支援策を講じております。全国のスキー場や地域がこの補助金を利用しており、主に降雪機やゲートシステム、多言語ウェブサイトの構築などを進めているようです。

志賀高原では、令和2年度からこの補助事業を活用し、様々な整備を進めており、本年度も補助申請をしております。この補助金はDMOなどが申請主体にならなければならず、今後は町として山ノ内町全体のスノーリゾートとして地域計画を策定し、申請していきたいと考えております。

先日も、私が観光庁に出向き、新しい担当となった専門官とも話をしてまいりましたが、来日観光客が増えたので、財源としている入国税が増えたため、今後この予算は増えそうだとのことでした。

県においては、スキー場再構築に向けたマスタープランの策定や、実行面での課題解決に向けて、スキー場への助言を行うアドバイザーを設置するなどの支援策を講じていくと聞いております。課題は多くありますが、また山ノ内町に来ていただけるスノーリゾートとなるよう、町としては順次受入れ環境整備の充実を早急に進めながら、町のスキー場が抱える課題の解決やサポートを模索してまいりたいと考えております。

(4)の湯田中駅前活性化(再開発)に向けて、現状の課題、今後の取組はについてですが、湯田中駅は町の鉄道の玄関口であることから、昨年度から旅行者への情報発信強化を目的としたインフォメーションセンターの設置、湯田中駅構内の売店の再開などに着手しております。また、湯田中区及び一般財団法人共益会と連携し、湯田中のまちづくり委員会の立ち上げを進めており、湯田中駅周辺の活性化に向けて取り組んでいるところです。

続けて、(5)の自然エネルギーの普及についての①可能性と課題はについてですが、当町の自然エネルギーを活用しやすいコンテンツとしては、個人レベルでの太陽光や温泉熱の活用に加え、温泉地であるがゆえの地熱発電や傾斜地を活用した小水力発電も有効であると考えております。普及に関しては特に問題とまでは取り上げておりませんが、個人レベルでは町民一人ひとりが高い意識を持って自然エネルギーを活用するための補助制度の充実が必要だと考えております。また、企業レベルでは、温泉や水に関する権利の調整が必要であると考えており

ます。

続いて、②のマイクログリッド構想についての見解と実現に向けての検討はとのご質問ですが、マイクログリッド構想に関しては、再生可能エネルギーで電気をつくり、限られたコミュニティの中の電気供給を賄うことで、できるシステムで、災害時等の電力面でのインフラ強靱さ、電力レジデンスを確保できる施設という認識であります。現在のところ、発電に利用するエネルギーの確保の課題もあり、検討に至っておりません。

続きまして、大きな質問の2の夏まつり山ノ内どんどんについての（1）昨年の反省点は、（2）今年の実行はについてのご質問ですが、昨年度はコロナ禍をへての復活ということもあり、従来行われていた各区の動員を廃止した形で開催しました。町民の皆さんからは楽しかった、またやってほしいと意見をいただいた反面、気温への対応、キッチンカーの行列や提供する飲食物の品切れ、音響の不具合など課題を把握しております。去る4月26日に実行委員会を開催し、昨年の反省点を改善しながら、盆踊りや音楽ステージ、魚のつかみ取りなど、子供が楽しめるものなど、好評だった点は拡充することに加え、友好提携都市である東京都足立区、群馬県玉村町や今年3月22日にパートナー提携を締結した北海道美唄市からのブース出店などを計画しております。全体的にSDGsの観点も加えて、8月10日に開催することを決定しております。

続いて、大きな質問の3番の来年の町制施行70周年に向けて、（1）記念式典、イベントの考えはについてですが、1年前に小田議員からも同様のご質問をいただき、これからの未来を担う子供たちのシビックプライドの醸成につなげることを目的とし、各種事業の検討を行いたいと答弁しております。現在のところ、具体的な検討には入っておりませんが、消滅可能性自治体として町の名前も掲載している中、今までにないレベルの経済活性化、若い人たちに選ばれるまちづくり、孫たちが帰ってきたくなるような町にすべく、全町的に事業を検討したいと考えております。この70周年を機に全体に町を盛り上げるべく、議員の皆様からもアイデアをいただけましたら幸いです。

以上となります。

議長（湯本晴彦君） 再質問を求めます。

小田議員。

1番（小田孝志君） それでは、ふるさと納税から質問させていただきます。

先ほどの町長の答弁で、昨年度から約5,000万円アップということでございます。これについては、頑張ってアップしたなということでご苦労さまでした。また、関連の質問者、議員もおられますので、私から2点ほど提案をさせていただきたいと思っております。

まず、返礼品の関係ですが、町長も物から事へという考えもおありだという中で、事についての提案というかがございます。例えば、町で四季折々のイベントを開催していると思っておりますが、そのイベントに招待をします。例えば春、志賀草津ルートの開通式でございますが、そのときに納税者を招待して、その雪の壁を味わってもらおうと。あるいは夏まつり山ノ内どんどんへ

の招待、そのようないわゆるソフトです。それと今までのハードを組み合わせて、宿泊券をセットにするとか、リンゴを送るとか、そんなようなセットで考えるというのも面白いのかなど。あるいはここはスキーで有名なので、スキー体験、スキー教室、あるいは雪上車に乗せるとか、町内の温泉巡り体験とか、リンゴ狩り体験とか、そのような体験型を味わっていただくと。なかなか金額に換算するのは難しいですが、それがみそだと思われるんで、そんなことを提案させていただきたいと思います。

また、もう一つ、そのソフトの中に来年は70周年ということで70にちなんだ数字、先着7名、先着70名、例えば町長自ら先着7名はスキー教室を町長が行いますというような、良いか悪いかは別として、インパクトのあるソフトを提供すると。失礼ですけれども、議員の中にもスキーの先生が2人おりますので、そんなソフトを提供して、町をアピールすることができないかなというのが提案の一つでございます。

また、もう一つは、農政のお金の使い方なんですけど、令和3年、4年の実績を見せていただきまして、非常にバラまきの使い方というか、一般財源の補足的な考え方で、何というか、いわゆる特色を持たせて、納税者も、こういうことに使ったんだというのが分かりやすいような使い方の検討もどうかと思います。なかなかこれは、その財源がなくなったら、納税がなくなったらどうなんだというところもございしますが、自分とすれば、子育てとか教育、福祉、これを目玉として、例えば給食の無償化をするとか、医療費の無償化、それから通学定期の無償化とか、今回、留学の話も出ていますが、海外の留学生にこれを充てるとか、全てかどうかは、納税がなくなったら終わっちゃうということもあるんで、されどインパクトのある、分かりやすい使い方をすることによって、納税者はこう使っているんだ。これだったら協力しようという気持ちになるのかなど。それから、その恩恵を受けた子供たちが大人になって町外に出たとして、僕はこれで無料で通学できたんだと。じゃ、ふるさと納税またやろうかと、継続性にもつながるような気がいたします。その中で、返礼品とお金の使い方についての提案でございますが、ご意見を伺いたいと思います。

議長（湯本晴彦君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 貴重なご意見ありがとうございます。

今、お話しいただいた返礼品、物から事へということで、今、これは全国的にもそういうトレンドではあるんですけども、そちらも先ほどいろいろお話いただいたどんどんがいいかどうかはまた別としても、イベントですとかスキー関連のものですとか、新しい返礼品の開発というものは今後しなければいけないと私も思っており、職員とも話をしております。今まで担当部署が正直言うと、1.5人分しかいなかった部署でして、そこに今年4月から新しい職員も配置しまして、まず部署の人的強化をしているところと、これから4月に正式稼働しました観光局ともしっかりと連携を取りながら、返礼品の拡充をしていくことは、今日の前のやらなければいけない宿題として職員とも共有させてもらいながらやっております。

先ほど、もう一個あった70日なんで先着7名というのはちょっとこれはこれで別途おまけ的

なところですが、検討はしなければいけないかなとは思っておりますし、実際、うちの職員から、私がスキーレッスンをするという返礼品を出したいということで、昨年提案をもらいまして、別にいいよと言ったんですけども、ちょっとタイミングの問題でできなかったという経緯があります。来年は私だけではなく、プロスキーヤーの議員2人もいますので、セット販売させてもらえればなと思っておりますので、ご承知おきいただければと思います。

あと、今ありましたふるさと納税の使い方なんですけれども、こちらも先日、私もちょっと気になって職員と話しながら、見直しをかけております。おっしゃるとおり、本来一般財源で使うべきものも、結構今、ふるさと納税の財源を頼りにして出している部分もありまして、その辺の仕分けを聞きまして、起債が当てられないものなどをこちらを財源にしているということでしたので、おっしゃるとおり、いきなり切ってしまうと、これは使わないと言ってしまうと、実際、今やろうとしている事業ができなくなったりしますので、その中で可能な限り、しっかりと振り分けをしながら、寄附いただいた方にしっかりと説明ができるような内容の使い方というものに絞って今後使っていくという方向性で庁内でも今、話をしておりますので、その辺も使い方も含めて、しっかりと寄附者に説明ができることが前提なのと、それをしっかりと報告していくことで、またさらなる寄附者を増やす方向で、今建て直しをしておりますが、こちらもまた、今、部署、1人増えた状態で、まだ2か月で役場の中もばたばたしておりますが、これからスピードアップして進めていきたいと思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 小田議員。

1番（小田孝志君） 先ほどの返礼品とお金の使い方については私の意味を理解していただいたと思いますので、よく庁内で検討されて、インパクトのある返礼品、インパクトのある使い方ということで、分かりやすい形でやっていただければ、もっと納税額も増えるかなと、こんな期待を込めながら、お願いしたいと思っております。

続きまして、2番目の宿泊税の関係ですが、これについても後日、他議員が詳細な質問をするようですので、私からは、導入するに当たって、県に先駆けて町で導入できるように、5市町村としっかりと連絡取りながらやっていただければというのが一つ、それから、率にするのか額にするのかでございしますが、修学旅行相手のホテル、旅館については、学校で既に予算これしかないという予算ありきで計画を進めている話ですので、そこら辺については配慮が必要かなと思っております。それが2点目。

それはやはり宿泊税、観光税になるのか、名前はちょっと分かりませんが、使い道をしっかりと明確にさせていただきたいと、この3点について、見解をお伺いしたいと思います。

議長（湯本晴彦君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 今、小田議員がおっしゃるとおり、宿泊税に関しましては、今、もう県がやる方向で審議中ということで、審議会からも答申が既にあり、多分県庁の中で議論している段階かと思っております。私ももう1年以上前からこの宿泊税について、勉強会に出席させていただ

いたり、いろいろと勉強させていただいておりますが、基本的に県だけが主導でやった場合は、多分補助金などの我々が申請しないと使えるお金にならないという、事例が多いと聞いています。

ただ、福岡県での福岡市や北九州市などの事例でいくと、その北九州市、福岡市と一緒に同じタイミングで我々もやるということで同時に手を挙げた場合、宿泊者から徴収する税金としては一つなんですけれども、その中で75%、25%で県と自治体で分ける事例がありまして、そうすると観光税として市、自治体への収入はそれなりの規模になり、しっかりとその町の観光インフラの整備ですとか、様々なことに使えることで、県は取り分が少なくなってしまうんですが、そういう事例が過去にございます。それを見越して、我々山ノ内町と白馬村なども我々が手を挙げなければ、実際観光客がたくさん来る我々の町で観光の整備に必要な財源として本来使えるものが使えなくなることを危惧しており、県に先駆けて手を挙げている次第ですが、これは最終的には県との連携が必要となりますので、そこは戦うものではなくて、県と連携しながら、しっかりと観光税が適切に徴収でき、適切に使われることを県も我々もしっかりと議論していかなければいけないと感じております。

そして、使い道に関してなんですけれども、様々な前年の事例がありますので、ニセコですとか倶知安町の観光協会さんとはDMOとも話してきていますが、大抵の場合はDMOの財源に振り分けられていて、DMOがそれを財源としてバスの運行ですとか、ニセコなんかは、倶知安町はリアルにDMOがシャトルバスを運営して町内を無料で巡回させるということもやっていますので、そのように観光地としてあるべき、必要なインフラとかに使うことを想定しております。我々の町はたまたま長電バスさんや長野電鉄という公共インフラがございますが、こちらも本当にいつまであるのかということも含めて考えますと、我々はしっかりと我々で観光地として維持するための財源をしっかり持って、いざというときに備える必要があると思っております。

率、価格かという点に関しましては、実際率でやっている自治体は倶知安町だけでございまして、2%でやっていますが、実際に全国津々浦々あちこちで観光税やっていますが、実際に率でやっているのは倶知安町だけです。アドバイザーとして私がいろいろとアドバイス受けています日本交通公社の方からは、率でやったほうが良いと言われていた理由は、正直これから物価が上がっていくことが想定されており、宿泊の宿もそれこそ7,000円の安いところ、バックパッカー向けのところから、10万円のところ、ニセコなんかはそれこそ1泊150万円まであるところだとすると、額でやってしまうと、150万円の方から200円取ると、1万円の方から200円取るとは全然税収が変わってしまうことで、率でやって成功だったと話しておりました。ですので、実はこの率か額かというのは非常に検討はしなければいけないと思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 小田議員。

1番（小田孝志君） 率か額かという中で、修学旅行の話はされましたか。お願いします。

議長（湯本晴彦君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） すみません。修学旅行などに関しましては、ほかの自治体さんの事例から、修学旅行などは免税というか、取らない。修学旅行などからは取らないことも、よくほかの自治体さんやっぺらっぺらいますし、あと、ほかの自治体でやっぺらっているのは、7,000円以下からは取らないですとか、様々なパターンが実はこの観光税、宿泊税にはございまして、その中でどういうスタイルで我々町と長野県がやっぺらっていくかは、これから県とも一緒に相談をしなければいけない状態だと理解しております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 小田議員。

1番（小田孝志君） よく分かりました。

よろしくお願いします。

続きまして、スキー場の課題は、町としてどう関わっていくかでございます。これなかなか町の行政で一つの場所というか地域等にお金をつぎ込むと、なかなか難しい面があると思ひます。山ノ内町は志賀高原もあり、北志賀高原もあり、下の温泉もあり、大きく分けて3地域に分かれております。そんな中でスキー場に対してどうするのかは非常に難しいことは分かっておりますが、私もいろいろお話をいただいた中で、私から2つの要望というか、要望意見、それから1つの提案させていただきたいと思ひます。

まず、要望的なところでございますが、先ほど、町長申しましたように、スノーリゾート形成促進事業、これは国のやっぺらっている事業だと思ひますが、令和2年から志賀の観光協会さんでもこの事業について応募してやっぺらっている話も聞いております。そんな中で、補助率も2分の1ということで非常に大きいと思ひておりますが、大きいということは申請額自体がまた大きいです。そんな中で、今、県でもスキー場に対する危機感を持って、昨年あたりから地元の事業者等とお話合ひもしている中で、今年は県でもスノーリゾート評価、再構築促進事業というような事業費を600万円盛り込んだという話も聞いておりますが、そんな中で、国で補助率2分の1頂いたものについては、例えば今後県とか町で残りの2分の1を多少なりとも補助をつけるという動きを県にも働きかけていただきたいと思ひております。

また、あわせて先ほど修学旅行の話をさせていただきましたが、やはり数年前の軽井沢の事故以来、非常に運賃が上がっているということ。それから今年の2024年問題の中で運転手さんの問題、また燃料の高騰、どんどん運賃が上がっている中で、非常に志賀まで人が来てくれないというところで、少しでも運賃の補助的なものを検討していただきたいという要望もいただいております。そんな中で、これも県あるいは町、県に働きかけていただきながら、町でも先ほどの宿泊税の中からという考えの中でしていただきたいという2点の要望でございますが、回答をお願いしたいと思ひます。

議長（湯本晴彦君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 今、お話いただきました国際競争力の高いスノーリゾート形成事業の国からの観光庁から補助金の残りを補助ということでございますが、私も就任してすぐに県庁にご挨拶に行ったときに、阿部知事とも、実はこのスキー場問題に関してはいろいろと議論をさせていただきまして、その後も1回呼ばれて、1時間弱ほど、阿部知事ともこの件について相談というか、お互い何が課題なのかお話しさせていただきました。

その中で、やはり国が補助はしているものの、やはりそれが追いつかない状況ですとか、様々なスキー場が抱える問題があり、このまま行くと、スキー王国長野の中でスキー場が20年後に半減してしまう可能性があることも踏まえて、業界に対しての補助ではなくて、どうやって業界をよくしていくかということも議論させていただきました。

その中で、もちろんこの2分の1の残りの部分の補助を検討することはやぶさかではないと思うんですが、あまりスキー場が経営努力しないで補助金ばかりで頼るようなことになってはよろしくないと思っていますので、ただこの補助に関しては、例えばですけれども、じゃ降雪機を入れるのに6,000万円かかりますから3,000万円出してくれるとといったときに、当初6,000万円を用意しなければいけないところが難しくて、事業を断念する場合も多々ありますので、そういう一番初めにお金を用意しなきゃいけない部分を何かしら銀行、金融団と協力しながらサポートすることは現実的ではないかなと思っています。まだこちらは全く、私の試案として解決策の一つとして考えただけですので、実際今、町としてやるかどうかという話ではございませんが、そういうことは将来的に可能性があるんじゃないかと私は個人的には思います。

観光庁では、この補助金事業が国際的スノーリゾートだけではなくて、かなりたくさんありまして、高付加価値化の補助事業も今回町として申請させていただいていて、それはホテルさんたちがかなり応募されていました。そういう補助メニューがたくさんある中で、どういう補助が町として皆さんを取りまとめて出していくかみたいなことも含めて、なるべく先回りをして準備を皆さんとしながら、観光庁が出してくる補助金をしっかりと取りやすい環境づくりもしていきたいと思っています。

2つ目の今修学旅行のバスの補助ですけれども、こちらは様々な事業者さんからも実はリクエストはいただいております。大阪などからだとか、ちょうど菅平辺りから先がバスが高くなる。要はドライバー2人必要になるので高くなるから、補助をとリクエストいただいておりますが、こちらにも本当にそれをやることによって効果があるのかも含めて、ちょっと県とも相談しながら検討はしていきたいと思っています。昨今修学旅行のスタイルも大分変わってきていると聞いていますので、やはり補助金が最終的に決定になるのを、可能性はもちろんあるとは思いますが、その金額で決定してもらうというよりは、もうちょっと中身でしっかりと我々が売りにできるものをつくっていくとか、様々な対応ができるようなものを、特に今、学校はかなり多様化していますので、今までみたく大勢で来て、大勢でスキーしてだけではなくて、もっと細かいケアが必要になると聞いています。そこはやはりこの志賀高原ユネスコエコパー

クである強みとかも生かしながら、しっかりと町としてそういう学習できる場をつくるですとか、資源保護センターのさらなる活用ですとか、様々なことを模索しながら、修学旅行生のプラスにしていける形を考えていきたいと考えております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 小田議員。

1番（小田孝志君） 答弁の中で、いろいろ現状の問題等理解していただいた中での町長の答弁と理解させていただきましたが、引き続き検討よろしくお願ひしたいと思います。

また、最後、一つ提案したいことがございます。

これは、ちょっと前置きが長くなりますが、私が15年ぐらい前のときに、上林のロマン美術館にたまたま行ったときに、オーストラリアの方から声をかけられまして、地獄谷のスキーはどうやって行けばいいんだと言われました。いろいろ片言で話をしながら、どこでスキーやっているんですかと聞いたら、「白馬です」ということで、「ここには志賀高原もあるし、北志賀高原もありますよ」と話をしたら、白馬の隣がスキーモンキーだと。こんな話をしていました。隣と私は思っておりますが、確かに地図を見ると、オーストラリアから日本と、白馬とスキーモンキーの場所じゃ全然比較にならない、彼らの意識は隣なんだろうなと思いました。

改めて、私は上から地図を山ノ内町を見ました。で感じたのは、志賀高原と北志賀高原というのは近いんだなと改めて感じました。やはり今、志賀高原と北志賀高原を見た場合、志賀は土地利用についていろいろ制約があると。北志賀高原については制約が、自由度が高い。それから雪道、いきなり標高1,500メートルまで登りますので、運転に不慣れな人はちょっと志賀敬遠してしまうという状況もあります。北部地区については過疎化の問題もございます。

また、志賀高原は冬は一本道になりまして、災害時、1本道路を閉鎖してしまうと対応全くななくなるという安全上の問題があります。そんな中で私は提案をしたい一つは、志賀高原と北志賀高原をリフト、ゴンドラ等でつないでどうかということを新たに提案したいと思います。そのようなことをすることによって、両方のスキー場が私は生きてくると思います。世界に誇れるスキー場になると思っておりますが、町長の考え方について、もし今、考えがあれば、考え方も聞きたいと思っておりますが、よろしくお願ひしたいと思っております。

議長（湯本晴彦君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） いろいろなご意見ありがとうございます。

まず、白馬からかなりのスキーヤーがスキーモンキー見に来ることは私も理解しております、白馬にHakuba Connectという外国人向けのフリーペーパーがあるんですけども、そこを1ページ目、開きますと、スキーモンキーツアーの広告がでかでか出ていまして、白馬からたしか1万5,000円ぐらいでスキーモンキー見て、小布施町回ったり、善光寺見たりして帰るみたいなツアーがあつて、大体外国人の方は皆さん長期滞在されますので、1週間とか10日いるときに、1日滑らずにそういうのに参加して、スキーモンキーを見に来る方たちが白馬から

も野沢からもすごくたくさん来ていました。

私自身が、去年のどこかのタイミングで議会での答弁でも話をさせていただきましたが、2015年に前町長、竹節町長に、ビジターセンターの提案書を持ってきたときも、そういう話を聞いていたものですから、しっかりと町に来る方たちに、志賀高原だけではなくて、湯田中、渋温泉、北志賀のことを知ってもらえるような場所をつくる、要は足を一回止めさせて、観光のことを伝えられるような場所をつくるべきではないかという点をさせていただいたんですが、当時と今も状況は正直あまり変わっていません。

ですので、せめて湯田中駅にはということで、インフォメーションセンターを立ち上げさせていただいて、情報発信をしっかりとやっていくことで、白馬に来ている方たちも、そのすぐ先に志賀高原という日本最大のスキー場があるんだということを知っていただくいい機会をつくることで、これからまたロマン美術館の向かいに待合室造ったり、情報発信用のデジタルサイネージなどを置いて、しっかりと、ただ単に利便性を高める目的も一つあるんですが、それ以上に山ノ内町の観光資源をしっかりと知っていただく場所をつくっていきたいなと思って、今整備を進めているところではございます。

そして今、お話しいただきました竜王と奥志賀をつなぐゴンドラのようなものということですが、こちら過去に2社、竜王のスキー場さんと奥志賀のスキー場さんで、そういうものを想定して議論を続けていたという経緯は聞いてはおります。その後、奥志賀がメルコリゾートさんから今のフィクスターズのオーナーに代わったりしまして、オーナーチェンジなどもあり、その話は特に今、現状、動いているわけではないとは思いますが、過去にはそうやって2社のスキー場で検討されたこともあるようですし、技術的にはそんなに難しくはないんじゃないかなと思っておりますし、今、北部地区が、それこそ議員おっしゃるとおり、過疎化してちょっと元気がないところですので、竜王中心として須賀川エリアがさらにホテル誘致などができて、活性化するようになれば、もっとこの町は活気が出てくるんじゃないかなと思っております。

現状、索道というのは非常にお金がかかるものでして、リフト、志賀高原、今48本あると聞いていますし、それらの維持管理には膨大なコストがかかっておりまして、それらをやはり賄えるだけの売上げを今後つくらなければいけないとなると、いかに日帰り客がスキー場を使うかということも議論しなければいけないと、索道協会さんとかも共通の課題として捉えておると聞いておりますので、その辺はまた、町としてもどういうサポートができるのか。

あと、奥志賀地籍では、我々は町の土地でリゾートさんが経営していただいているという立場もありますので、町としても、どういうことができるのかということは今後しっかりと考えていきたいと思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 小田議員。

1番（小田孝志君） 分かりました。

自分自身思いつきで言っている部分もあります。そんな中で可能性がないわけではないと、

ぜひ町も関わってほしいんです。じゃ、どうやって関わればいいのかということなんですが、当然事業をやることになる前に、やはり調査を私はしなければいけないと思うんです。事業可能性調査が必要だと思いますが、候補地はどこがいいか。基地の候補地、志賀、北志賀、いろいろな場所ありますから、どこがいいか。事業費の算出、それに基づいた事業費を算出、入り込み客の検討も含めた採算性の検討、そこら辺をしっかりとした中で、地元地権者との合意形成を図り、またリフトをかけることになったとしたら、町が主体となってやるのか、索道会社がやるのか。そのときに町で補助が出せるかどうか。地元の索道会社で無理なんであれば、外資を使うのか、あるいはこの前の野沢温泉での話、野沢というか、飯山のなちゅらで開きましたケン・チャンさんの人と呼ぶのか、そこら辺も含めて、ぜひ町が関わっていただきたいと思っておりますので、そこら辺のお話を聞いた中で、ちょっと時間切れになってしまいましたが、これで私の一般質問を終わりにしたいと思っております。

お願いします。

議長（湯本晴彦君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） ありがとうございます。

町が関わらなければいけないとは私も思っておりますが、その関わり方ですとか、適正な、あとは先ほどもちょっと言いましたけれども、今、私としては投資家呼び込みというところにも力を入れていますので、プラス今ちょうど先日、メガバンクの役員とも会わせていただいたんですけども、メガバンクでも地方創生デスクというものをつくって、地方創生に対して銀行としてもかなり力を入れていく姿勢があるようですので、その中で例えば我々が抱えているスキー場の問題点なども含めて共有しながら、町としてできることというのを、今まであまり事例はないかもしれませんが、新しいことになるかもしれませんが、やっていきたいと思っております。

そして、スキー場に関しましては、先ほどおっしゃったように、調査などはもちろん必要ではあるんですけども、まずはビジョンが必要だと思っております。県もいろいろと今回新しく動き出したときに、マスタープランの策定、サポートみたいなことを書いてあったと思うんですが、やはりマスタープランをしっかりと持つというものが重要だと思っておりますので、その辺も含めてこれからマスタープランというのはある種事業計画であったり、事業ビジョンであったり、あと、どういう形でのスキー場を目指すのかとか、どこにコースを造ってみたいのか、そもそもそこは環境省的にOKなのかどうか、許認可取るのにどれぐらいかかるのかですとか、取るための条件ですとか、様々なことができますので、そういうことを踏まえて、我々としてはしっかりと町としてやるべきことをやっていきたいと思っておりますし、小田議員が初めにおっしゃったように、スキー場産業というのは様々な産業が下にひもづいていますので、スキー場がなくなってしまったら、ホテルも困るでしょうし、そこはしっかりと我々としては基幹産業の一つとしてサポートしていくべきだと思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 1番 小田孝志君の質問を終わります。

ここで昼食のため、午後1時10分まで休憩します。

（休憩） （午前11時56分）

（再開） （午後1時10分）

議長（湯本晴彦君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議長（湯本晴彦君） 13番 白鳥金次君の質問を認めます。

13番 白鳥金次君、登壇。

（13番 白鳥金次君登壇）

13番（白鳥金次君） 13番 白鳥金次でございます。

平澤町長におかれましては、昨年3月に就任されてから、1年と3か月の間に精力的に海外へとトップセールスをされてこられました。その成果が実感できることに町民等しく期待をしています。

町長には、失礼を承知で申し上げます。一方で、町民は、町長にぜひとも町内、足元を見ていただきたいと思っています。昨年の選挙期間中は町内各地くまなく歩かれ、多くの住民と会話をされ、地域の様子を感じ取られたと思います。1年と3か月が経過いたしました。時間を生み出していただき、町内津々浦々、今まさに旬の様子を見聞きしていただきたい。お願いをしておきます。

古典落語の演目に「目黒のサンマ」がございます。落語の魅力は豊かな表現力や人間ドラマ、時代背景や社会風刺が反映されたストーリーなど、様々な要素があります。また、聞く人に自由な発想や思考力を与えることができるため、何度聞いても新しい発見があると私は思っています。町長のお近くに落語に造詣が深い方がいらっしゃいます。時間を生み出していただき、話をお聞きになった中で、町長ご自身におかれまして、新しい発見ができれば幸いです。

それでは、貴重な時間をいただきましたので、通告に従いまして一般質問を行います。

1、学校教育について。

（1）小学校1校統合について。

①統合小学校の設置場所はどのように決定していくのか。

②小学校適正規模適正配置等審議会委員はどのように選任していくのか。

（2）中学校部活動の地域移行をどのように支援していくのか。

（3）山ノ内中学校、スポーツ・文化活動後援会への町からの補助金を削減した経緯は。

2、水道施設について。

（1）各浄水場の水源施設更新計画は。

（2）災害に備えて、危機管理対策マニュアルは策定されているのか。

3、農業振興について。

(1) 町長の公約に稼げる農業を掲げているが、1年を経過して、どのように評価をされているか。

(2) 中山間地域農業直接支払制度の周知及び活用への支援は、
以上です。

再質問は質問席にて行います。

議長(湯本晴彦君) 答弁を求めます。

平澤町長、登壇。

(町長 平澤 岳君登壇)

町長(平澤 岳君) 白鳥金次議員のご質問にお答えいたします。

大きな質問1の学校教育について3点のご質問ですが、小学校1校統合につきましては、町内における児童数が減少を続ける中で、小人数などによる教育環境に対し不安を抱える保護者様の意見も聞こえており、早急な学校統合が必要と考えております。そのために、令和6年3月27日開催の山ノ内町総合教育会議でも、早急な学校統合を進めるべく、令和9年4月の小学校統合を目指し、統合に係る検討準備を進めていただくとともに、設置場所につきましても、教育委員会より提案されておりました中学校敷地での統合案では、狭小校舎になるおそれがあることや、建設コストが高騰する中で校舎建築に係る財政負担が増大になること、また、あくまでも私案ではありますが、将来的に西部エリアを住宅文教エリアにしたい思いがありますので、そうしたことも踏まえ、改めて設置場所や学校の在り方などについて検討していただくようお願いしたところであります。

小学校の統合に当たりましては、魅力のある教育環境と魅力のある教育内容が必須と考えておりますので、そうしたことも含め、教育委員会で検討いただき、総合教育会議などで協議する中、最終的な小学校統合の在り方について決定してまいりたいと考えております。

次に、中学校部活動の地域移行をどのように支援していくのかとのご質問ですが、生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の両立を実現するため、総合型スポーツクラブと連携し、中学校部活動の地域移行を支援していきます。

ご質問の細部につきましては、教育長から答弁させます。

続きまして、大きな質問の2の水道施設について、2点のご質問をいただいておりますが、新東部浄水場が本格稼働して8か月が経過しましたが、特に問題なく順調に稼働しております。しかしながら浄水場は最新のものになりましたが、取水である仙岩水源については、大雨が降ると土砂が堆積し、導水できなくなる課題を抱えており、原水の確保に苦慮しております。

(1)の各浄水場の水源施設更新計画についてはご質問ですが、令和4年3月に水道施設の実施計画を作成しており、この計画を基本に水源施設改修について緊急性を加味し、順次対応していくことを考えております。

(2)災害に備えて、危機管理対策マニュアルを策定されているのかとのご質問ですが、近年は地震や大雨による災害が全国各地で頻発しており、水道等のライフラインに多大な影響を

及ぼしており、当町も例外ではないと考えております。

現在危機管理マニュアルはございませんが、施設ごとの災害対応については運用面で蓄積したものが資料としてございます。今後大規模な災害が発生した場合については、県及び長野市を中心とした北信地域の市町村に応援依頼をし、給水車の出場要請等状況に応じて対応していく予定であります。

続きまして、大きな質問3の農業振興について、(1)町長の公約に、稼げる農業を掲げているが、1年を経過してどのように評価されているかのご質問ですが、私が公約に掲げておりました稼げる農業について、山ノ内ブランドの果樹やキノコ、農産物のブランディングや労働力不足などの問題解決など、1年間取り組んできたところではございますが、課題の解決までは私自身道半ばと認識しております。農業などのブランディング、情報発信、観光プロモーションやイベントの企画運営など、町一丸となつての経済活性化を目的として、この春から立ち上げました観光局につきましても、一日も早く軌道に乗せ、町への観光面のお客さんが増えることでも農業も活性化すると思っておりますので、さらに取組を加速させていきたいと思っております。

続いて、(2)中山間地域農業直接支払制度の周知及び活用への支援はとのご質問ですが、中山間地域等直接支払制度は農業の生産条件が不利な地域における農業生産活動を継続するため、国及び地方自治体による支援を行う制度として平成12年度から実施してきております。現在第5期対策期間の事業、最終年度となっております。詳細は産業振興課長から答弁させます。

以上となります。

議長（湯本晴彦君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） それでは、教育に関します白鳥金次議員からのご質問に私からもお答えします。

1学校教育について。(1)小学校1校統合について。①統合小学校の設置場所はどのように決定していくのかのご質問です。統合小学校の設置場所につきましては、従来、中学校敷地を活用することを基本に検討が進んでまいりましたが、さきの総合教育会議において、既存小学校施設の活用を含めた設置場所の検討をすべきとの町長からの意見がありましたので、このたび改めて設置場所等について検討、協議を行う山ノ内町小学校適正規模適正配置等審議会を開催し、中学校敷地活用案と既存小学校施設の活用案について、より丁寧な検討を行う予定であります。

次に、2小学校適正規模適正配置等審議会委員はどのように選任していくのかのご質問です。山ノ内町の小学校適正規模適正配置等審議会条例第3条におきまして、委員は25名以内で組織し、小学校及び保育園の保護者代表、区長会の代表、学校長などから教育委員会が委嘱することになっておりますので、PTAや保育園の保護者会などの団体より代表者を推薦いただいた上で委員の選任を行います。

また、町民の皆様からも広く意見を聴取するため、審議会公募委員を募集し、4名の方に委員を委嘱する予定です。

次に、(2)の中学校部活動の地域移行をどのように支援していくのかとのご質問です。今年度は4月26日に小・中学校長や各学校PTA会長、中学校各部活の保護者代表等で組織される山ノ内町学校部活並びにクラブ活動地域移行検討委員会を開催し、そこで地域移行の進め方やこれまで実施したアンケート結果、今後のスケジュール等についてまずご説明をさせていただきました。今後段階的に地域移行を進めていく中で、今年度は休日の部活動の地域移行の実現を目指し、中学校部活動顧問等に現状の聞き取りを実施してまいります。

次に、(3)の山ノ内中学校スポーツ・文化活動後援会への町からの補助金を削減した経緯はとのご質問です。昨年度は山ノ内中学校スポーツ・文化活動後援会より、山ノ内町団体育成事業補助金交付要綱第4に基づく交付申請がございましたが、関係書類の審査を行った結果、繰越金が多額となっていたため、補助金の必要性が低いものと判断いたしました。また、中学校部活の地域移行の協議を始めていたところでもありましたので、今後の在り方を踏まえ、中学校とも相談し、昨年度は交付を行いませんでした。

なお、今年度については、後援会事業の予算に不足が生じる場合や必要と認められる活動等には支援を行うという考えに基づき、当初予算に補助金を計上してございます。

以上でございます。

議長（湯本晴彦君） 産業振興課長。

産業振興課長（宮崎弘之君） 白鳥金次議員のご質問にお答えします。

3、農業振興について。(2)中山間地域農業直接支払制度の周知及び活用への支援はとのご質問ですが、この制度は平成12年度から始まり、農業の生産条件が不利な地域における農業生産活動を維持するため、また、平成27年度からは農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律に基づいた安定的な措置として実施されています。町内各地域で取り組んでいる農業生産活動は、洪水や土砂崩れを防ぐ、美しい風景や生き物の住みかを守るといった、広く国全体に及ぶ効果をもたらす活動です。この制度は農業生産条件の不利な中山間地域などにおいて集落等を単位に農用地を維持管理していただくための協定を締結し、それに従って、農業生産活動などを行う場合に、面積に応じて一定の額を交付するものです。制度の対象は、地域振興立法で指定された地域において、傾斜があるなどの基準を満たす農用地であり、一例では、急傾斜地、水田20分の1以上、緩傾斜地水田100分の1から20分の1未満、地目による単位は水田が高く畑は安くなっています。

最低面積が1ヘクタール以上でおおむね1区画にまとまっていることなど、細かな基準はありますが、現在町内では12集落が協定を結び、活動をしております。交付金の負担内容は国2分の1、県4分の1、町4分の1となっており、協定集落への交付額は地目、区分の単価、面積により積算され、交付されます。制度の内容につきまして国や県のホームページで公表しているところですが、現在町においてもホームページによる制度の周知を行っております。

農業における地域活動は大変重要なものであり、活動資金としての使い勝手はよいものではないかと思われます。地域内において協議会を立ち上げることを進めるには、大変手間がかか

ります。現在活動を行っている集落も問題がないわけではありません。地域が一つとならなければ農地の維持は難しいものです。令和7年度より第6期の活動が始まります。この制度に關しましては、さらに周知を進めてまいります。活用の支援に關しましては事務の煩雜さが伴いますので、事務局へご相談いただければと思います。

共に事を進めさせていただきたいと思います。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 再質問を認めます。

白鳥議員。

13番（白鳥金次君） それでは、再質問いたします。

順番を変えて、稼げる農業についてです。ブランディングと付加価値創造を掲げておられます。ブランディングの活動として、本年はぜひとも町長に当町のリンゴ、ブドウ、プラム等々を農協、JA志賀高原と生産者団体とで市場、できれば東京の大田市場、これはナンバーワンですけれども、大阪の大果大阪青果、この2つの市場へぜひトップセールスをしていただきたいと思います。いかがでしょうか。

議長（湯本晴彦君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 町としても、JAさんと定期的に懇談をする中で、しっかりとどういうことをするのが効果的か相談させていただきながら、私がセールスすることで効果が出ると思えば、私は幾らでも行かせていただきたいと思います。以上です。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） ブランディングの得意な町長でございますので、ぜひお願いをしたいと思います。訪問される際には、JA志賀高原には市場に面識の広い理事さんがおられます。また、町の職員の中にも同様の方がおられます。生産者団体も加わりまして、計画をさせていただき、稼げる農業、公約に結び付けていただくことを期待しております。

次に、中山間地域の支払制度でございますけれども、先ほど制度については、細かくご説明がございました。先日、去る農業経営者の方からお呼びがかかりまして、うちの土手の高い草刈りについて相談がございました。現地に伺いますと、やはり高低がございました。基盤整備をされたところなので、どうしても急なところに平らなものを造ったことによって、土手が長くなったんです。ちょうどその土手を見せていただいたら、方丈が大体20メートルの50メートルぐらい平間があるんですけれども、やはりそれと同等に4メートルぐらいの高い、そして50メートルの長さの土手があるんですけれども、これはじゃ一体幾らぐらい資材、ネットを張りたいと言っているんです。ネットを張るには幾らぐらいかかるのかなとお聞きしたら7万円ほどだとおっしゃいました。かなり高額でございます。これは何とか支援制度はないのかな。私も今回質問した中山間地域ということで、これが当てはまるのかなと思ったんですけれども、なかなか私の力不足で見つからなかったんですけれども、産業振興課長の宮崎課長、この地域

は急なところなので、このネットとかそういうものが適用になるのでしょうか、お伺いいたします。

議長（湯本晴彦君） 産業振興課長。

産業振興課長（宮崎弘之君） お答えします。

議員のおっしゃるお話の中で、やはり他の事案等を確認してみましたところ、中山間地域農業直接支払制度で施工している箇所がございます。私のうちの田んぼのある地域もこの中山間地域の農業直接支払制度を活用しております。ちょうど、第3調整池の上も大分個人で草刈り用のシート等を張られております。また、資料でいろいろ調べてみましたが、元気な中山間地域づくり活用事例を調べてみたところ、令和2年度にのり面に防草シートを張ったという場所もございました。ネットを張りまして事故が減ったという文書も載っておりましたので、事案があるということですので、その制度で行っていけないかと思っております。また、議員がおっしゃっている地域ではどこら辺になるのでしょうか。お教えてください。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） 穂波小学校、昔の人間だからすみません。南部地域です。

議長（湯本晴彦君） 産業振興課長。

産業振興課長（宮崎弘之君） 南部地域ということですが、南部地域には現在南部地区の農業振興会議が組まれております。農業委員さんを中心に地域の農業振興に様々な面で取り組んでいただいております。大変ありがとうございます。地域の力を一つにしまして、いろんな補助を地域で使っていただけるということもご検討いただければと思っております。組織を運用する、つくっていくのは大変面倒ではございますが、ほかの多面的機能等も使われている地域も大変な苦勞をされて運用をされております。しかしながら、国からの補助、県からの補助、そこに町の補助がついてまいりまして、地元の皆様には大変使い勝手のいい事業ではないかと思っております。地域が一丸となりまして事業を進めていただければ、本当に我々としてはありがたい次第でございます。制度を活用するための協定等に関しましては、2種類ほど協定もございますし、また、今の少子高齢化の問題もございまして、農地の活用の問題もございまして、ぜひともご検討いただきましてご相談いただければと思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） 私の南部地区だけ申し上げては失礼と思うので、町内には幾つかの振興会議もございます。組織もございますし、また農業委員会等もございますので、この中山間地の制度に限らず、農業に対しての支援制度がかなりあると私も認識しておりますので、周知と活用、また活用後の検証も含めて、ここで強く望んでおきたいと思っております。また、やはりこれを立ち上げていくには事務的なことが大変です。我が地域も多面的にやっているんですけども、事務局の方が大変苦勞しております。私、過去にご提案申しましたんですけども、ぜひ事務局を、地域おこし協力隊、この辺が活用できるのではないかなと思っているんですけども、

も、またその辺を、私も勉強しますけれども、課長も調べていただければありがたいと思います。

改めて、平澤町長に伺いますが、こうやって地域の皆さんが国からの支援をいただきながら、農業を進めております。改めて、町長が掲げる稼げる農業に向けてのお気持ちをお聞きしたいと思います。

議長（湯本晴彦君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 今、議員おっしゃったとおり、農業もかなり様々な補助金が出るかと思えます。観光もそうなんですけれども、やはり補助金をもらうことにはなかなか事務作業等々も発生しますので、その辺を何かしらの形で協力し合うことで負担を軽減しながら、できればいいなとは思いますが、協力隊の利用に関しましては、さすがにやはり協力隊は都合のいい人手ということではなくて、3年後にしっかりと就職先を決めることが前提で、そこに居ついただけてということをお前提に来ていただくというのがありますので、それも含めて可能性があればもちろん検討していくべきかとは思いますが、最近は農業の方とも私もお話ししますと、JAさん使ったり使わなかったりと、様々なスタイルが正直町の中にも存在することは知っております。

その中で、今非常にふるさと納税とかでもそうなんですけれども、やはり作り手の顔が見えるとか、ストーリーがある、ストーリーがちゃんと伝わるといことがブランド力の発信ということになると思っておりますので、町としては、この町の水のすばらしさ、地形のすばらしさ、気候のすばらしさなどをしっかりとPRすることで、ブランド育成になっていくかと思っておりますので、引き続き、観光局も使いながら、しっかりとブランディングをしていきたいと思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） 町長の公約に対するお気持ち強いものを感じました。

ここで質問とはちょっと外れてしまいますけれども、過去何回も農作物への猿害対策をお願いしてきました。当地区におきまして、先頃猿の1群れが捕獲作戦が成功したという報告をいただきました。ここに本当に感謝を申し上げます。今年の秋の収穫には皆さん期待をされていると思っております。引き続き、まだほかの地区にも群れがいるとお聞きしております。実証例、捕獲できましたので、引き続き捕獲作戦を継続していただきたいと思っております。ここで改めて苦勞をいただいた担当職員さんいらっしゃるんですけども、担当職員に御礼を申し上げますとともに、関係の皆さんに御礼を申し上げさせていただきます。本当にありがとうございます。

なお、次回の一般質問についてはニホンジカの被害も大きいので、この辺についてもいろいろな私も資料を調べながら、駆除と言っはいけないんで、捕獲について質問をさせていただきますので、ご準備をしていただければありがたいと思います。

それでは次に、水道施設についてですが、町長からご答弁をいただきました。昨年も答弁には緊急性を考慮しながら順次対応していくということで、仙岩水源については昨年度答弁ですので、今年度の水源調査を行い、今後の改修に向けて検討していくことと考えているという答弁をいただきましたけれども、1年が経過しました。具体的にはどのように仙岩水源については進めていっているのでしょうか。建設課長、お願いいたします。

議長（湯本晴彦君） 建設水道課長。

建設水道課長（高木和彦君） お答えします。

先ほど町長からもお答えしましたが、水道事業実施計画を令和3年度に作成しておりまして、その中で今年度につきましても仙岩水源の導水の整備計画と、計画を今つくっているところがありますので、そういったことでゲリラ豪雨等の際には必ず職員等で砂利の撤去等、そういったことになっていきますので、その辺を踏まえまして計画と体制を整えていきたいと思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） 計画の中に、課長もご存じだと思います。私も過去の仕事から管理道路のトンネル、照明がないんです。水力、小水力発電でもよろしいですし、今、ケーブルもかなり1キロ流しても、抵抗力が落ちているのもございますので、発電機を持って行ってつけるとか、やはりあの中、暗い中、ヘッドライトだけで行くのは非常に職員大変ですので、やはりこの整備計画の中にトンネルの照明を入れていただきたいんですけれども、入っているのでしょうか。

議長（湯本晴彦君） 建設水道課長。

建設水道課長（高木和彦君） お答えいたします。

その辺の確認はしておりませんが、確かにトンネルだけでも1キロ超える距離ありますので、またその辺は確認し、もし計画で可能でしたら対応していきたいと思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） ぜひとも計画に入れていただきたいと思っております。

町長に申し上げますけれども、水道施設更新計画の実施と危機管理対策マニュアルの策定については早急に整備をしていただきたいと思っております。今年度の町の組織改正によりまして、建設水道課において、上水道と下水道が一体化されました。大変重要なライフラインで、担当係長さんが1人というのはちょっと荷が重いと私は思っているんですけれども、私の取越し苦労なんのでしょうか、町長いかがでしょうか。

議長（湯本晴彦君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） そうですね。この4月からの新しい新体制で今、ようやく運用して2か月ということですが、上下水道一体管理するということも含めて、スムーズな組織ということで、これから正直言いますと、役場自体は人を削減をしなければいけない時代に入ってきておりま

すので、人を増やすことはできませんので、いかに効率よく仕事をするかということが、一つの使命です。そこも含めて新しいスタイルで運用しながら、もし、非常にそこで賄えていないのであれば、もちろんそれは負荷が人にかかってはしようがないので、そこは負荷が、担当課から少し分散されるような体制づくりはもちろん、細かくは考えてまいります、基本的に今、人を増やすことを考えておりません。

そして上下水道インフラに関しましては、私も災害時だけではなくて、通常の平時から非常に重要なライフラインだと思っておりますし、仙岩水源に関しまして、現在、東部浄水場が取水口が一つしかないところでの不安もございまして、実際、去年の志賀高原であった集中豪雨、こちらでは雨ほとんど降っていませんでしたが、志賀高原の上だけで降ったときに既に仙岩水源にちょっとダメージがあって大至急、うちの職員が出動することになりまして、先ほど議員がおっしゃっていたトンネルの暗い件も含めですけれども、もう職員の身の安全も大事ですので、そこをしっかりとバランスを取りながら、ライフラインである水をしっかりと供給できる態勢を組織としてしっかりと構築していくように話しておりますので、今後も計画をつくり、それをしっかりと実行していくと思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） ライフラインです。ぜひともお願いしたいと思います。

私、くどいようで申し訳ございません。平澤町長におかれましては、町内の各水道施設、ぜひ現地を踏査していただいて、目で見ていただきたいと思っております。もし現地踏査をされるようでしたら、私も各水源、かじっておりますので、私も同行をさせていただきますので、ぜひ時間を生み出していただいて、計画していただきたいと思うんですが、くどいようで申し訳ございません。いかがでしょうか。

議長（湯本晴彦君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 以前から議員にもそう言っていただいておりますので、時間をつくって、見に行く時間をつくりたいとは思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） 私、時間は生み出すものだと思っておりますので、お願いをしたいと思います。

それでは、学校教育に移らせていただきます。

先ほど、教育長からも説明がございました令和4年3月時点の山ノ内町立小学校適正規模適正配置に係る基本方針、これを今年度中に作成をしていくということです。

教育長、お願いいたします。

議長（湯本晴彦君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） お答えいたします。

そもそも令和4年3月にまとめられたものによって、従来、中学校敷地への統合という方針が固められましたので、今回、改めてちょっと視野を広げるに当たっては、その同じ審議会を改めて開く必要があるという判断でございまして、そこで改めての場所の決定、答申をいただく段取りでございます。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） 場所の決定とかなり中身がいろいろございます。やはり中身も、場所の決定のみならず、様々な項目も検討されるのでしょうか、お願いいたします。

議長（湯本晴彦君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） おっしゃるとおりです。場所のみならず、従来教育委員会としては小・中併設という方針を大事にしていまいりました。その中には中高一貫であったり、義務教育学校という幾つかの考え方が含まれてございますので、そういったこともしっかり基本に置きながら、将来的なビジョンをしっかりと答申を出していただくという考えでございます。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） ぜひとも町長がおっしゃっている魅力のある文言が、魅力というのは前回も町長とやり取りをしたんですけれども、かなり魅力のある文言が盛り込まれていくのかなと私は期待をしております。そのことによって場所が決定されます。場所が決定されたら、これを総合教育会議で町長と教育委員会とで協議をされて最終決定をされる、こういう流れになるのでしょうか。

議長（湯本晴彦君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） 今ご指摘の点につきましては、昨年度、令和5年度と同様に、最終的には改めて町長と教育委員の皆様で協議をしていただいた上で、教育委員会として責任を持って決定させていただく、そんな流れでございます。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） この審議会、多分1年で方向を出そうとお聞きをしております。1年の中で、開催スケジュール、ほぼ何回ぐらい積み上げていって、出てくるのかというのは、今の段階で申し上げるのは大変失礼なんですけれども、おおよそ教育委員会で方向性はお持ちだと思っているんですけれども、開催とスケジュール的なものはどうお考えでしょうか。

議長（湯本晴彦君） こども未来課長。

こども未来課長（望月弘樹君） お答えします。

開催の細かな回数まではちょっと今の時点では定めておりませんが、まず、6月13日に第1回目を開催したいと思っておりますので、そちらのほうで町から提案を差し上げまして、その中でまた詳細なところは打合せしていきたいと思っております。いずれにしても一度で決めるということではないので、数回会議をさせていただく中で、今年度中には場所も決定できるように進めていきたいと思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） 先ほど、委員は25名以内ということでおっしゃられました。この25名の皆さん、本当にいろんな方々からいろんな角度から検討されると期待をしております。我が議会からも社会文教常任委員の高田委員長が議会から出席をされるようになってございますので、大変委員長には荷は重くはないと思います。委員長、荷は重くないと思っておりますけれども、ぜひ議論を重ねていただきたいと思っております。

先ほど公募から新委員に入られた方4名とおっしゃいましたけれども、実際に手を挙げられた、公募をされた方は何名いらっしゃったんでしょうか。

議長（湯本晴彦君） こども未来課長。

こども未来課長（望月弘樹君） お答えします。

5月のときに公募をかけさせていただきまして、4名の方が手を挙げていただいたことあります。当初25名を超えるような場合につきましては選考をかけさせていただこうとは思ったんですけれども、最終的に24名になりましたので、4名公募いただいた方、全ての方にご参加いただいてご意見をいただきたいと考えております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） 大変うれしく思います。4名という方、町の教育について多分認識の高い方だと思いますし、期待をするなどと言うと語弊がございますけれども、公募をされたことに対して、評価はさせていただきます。

いずれにいたしましても、統合小学校につきましては、町民、父兄、児童・生徒の父兄です。また、児童・生徒、またこれから児童になられる方、表現が適切ではないんですけれども、私も含めて、かたずを飲んで見守っております。

今までここまで町長に申し上げては失礼かと思っておりますけれども、やはり一旦立ち止まると。立ち止まっているものをつくるというふうにおっしゃって、1年間議論をして、これからまた1年議論をするんですけれども、見守っております。非常に教育委員会は大変だと私は思っておりますけれども、未来の子供たちのために、しっかりと議論を進めていただければありがたいと思っておりますけれども、改めて教育長、いかがでしょうか。

議長（湯本晴彦君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） ありがとうございます。

昨年1年間この統合に私自身も関わらせていただきまして、日に日にといいですか、対話の会を重ねるたびに、この統合に対する町民の皆様、大変幅広い方々の関心の高まりを感じております。それは大変ありがたくも思っておりますし、また心強くも思っております。

今回、公募委員の方々も様々な対話の場、また総合教育会議をはじめ、いろんな会議を傍聴いただいた方々でございますので、今回の審議会の議論も大変深まるのではないかと期待をしております。いずれにしましても、町長もそうですし、私どももそうですが、山ノ内町の未来

にとって、子供たちの未来にとって最善の学校をつくっていきたいという思いは同じでございますので、時間はちょっとかかってはおりますけれども、今年度中にしっかり、実際に子供たちの意見も今回はぜひ聞きたいと思っておりますし、そういったことを重ねて、本当に多くの方がわくわくできるような、そんな学校のイメージをお示しできたらと思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） 教育委員会サイドの思いをお聞きしました。教育委員会と町長とは一線を画すと私は思っておりますけれども、町長にお聞きします。

町長もやはり熱い思いで小学校の問題を一旦立ち止めたという思いがございますので、今後、どのような思いでいらっしゃるか、すみませんが、お願いいたします。

議長（湯本晴彦君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） まちづくりという視点で考えても、小学校というのは非常に重要だと思っております。何が重要かと言いますと、やはり私としては新しい建物があるかないかではなくて、やはりその中身だと思っております。山ノ内町に育つ子供たちはどういう勉強が受けられるのか、どういう教育が受けられるのか、どういう子供たちとして育つのか、どういう子供たちとして地域がみんなで見守りながら育てるのかと、そういうところが重要だと思っておりますので、そういう意味で中身の議論をしてほしいということを、ずっと就任してから変えずに言ってきております。

ですので、私としましては、箱よりも中身が重要だということで、3月にハードからソフトへということで、明確にちょっと私の意見をまとめさせていただきましたが、それを踏まえてしっかりと今度の適正規模適正配置等の審議会でも議論いただきたいですし、総合教育会議でもたくさん教育委員の方たちとの議論をしていく中で、町民の総意だという形で、山ノ内中学校敷地に建てるのが町民の総意だと言われましたが、私の周りにはかなりその意見に対して反対意見を申される方もいらっしゃいますので、やはりそこはしっかりと、みんなが納得するような中身づくりであったり、将来ビジョンであったりというものをしっかりとつくって議論をいただきたいと思っております。

私としては、今回の会議ですとか、あと教育委員会の会議等で、これから後、総合教育会議もまた開催することになると思いますが、そちらでしっかりと議論をしていきながら、この町にとって、この町の子供たちにとって、プラス、今やはり人口減少が非常に課題となっている中で、町としまして、いかに移住者を増やすか。まちのファンを増やすか、関係人口を増やすかということに必死にやっておりますので、私としましては教育面でもしっかりとその観点で学校をちゃんと作り、もっと言えば、理想を言えば、教育移住をしてきたくなるようなまちづくりをしたい。

そして、前、私はちらっと言わせていただきましたけれども、公立学校としての限界突破をするような形で、町内からわざわざ長野の私立に通わせるような子供さんがまだいらっしゃる

中で、うちの町の公立学校はすごいんだというような、それぐらいの公立学校をつくれなものでしょうかと提案させていただいていますので、私は、教育に対してはとても期待をしています。そしてまちづくりの中では非常に重要なウエートを占めていると思っていますので、私としては妥協はできない分野でもありますし、これからもしっかりと私自身が納得して、周りの人も納得するような方向で議論をしていただくことを様々な会議には求めていきたいと思っておりますし、町としての姿勢としてはそういうスタンスで、町の活性化のための学校づくりだとも捉えておりますし、それが今の子供たちのためにもなると思っておりますので、引き続きそのような姿勢で挑んでいきたいと思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） 町長の強い思いをお聞きしました。

私も納得する、そして皆さんが納得する。それには町長、皆さんが納得する、それを感じ取るにはやはり冒頭申し上げました、大変失礼を申し上げましたけれども、やはり津々浦々へ行っていただいて、そこでどんな声が聞こえるのかなというのを、ぜひ時間をつくっていただいて、お忍びで行っていただければありがたいと思っております。失礼を申し上げますけれども、お願いいたします。

それでは中学校の部活動についてですけれども、町のスポーツクラブと連携をするというふうに、言葉では非常にいいんですけれども、やはりそこにはかなり私はハードルがあるのではないかなと思っております。簡単にと言っては失礼ですけれども、簡単にスポーツクラブとおっしゃられるけれども、やはり現場、中学校の中でしっかりどう生きるのかというのをやはり生徒や教師ともっと議論をしていただきたいと思っております。いずれにしても2026年度末です、3年を切ってしまいました。やはり他市町村の動向も教育長も見えていただいて、連携を取っていただいて、進めていただけるのがいいのかなと思っておりますけれども、どうでしょうか。

議長（湯本晴彦君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） 今、議員ご指摘のとおり、既に部活動の課題としましては、一つの山ノ内中学校だけでは成り立たない、そういった部活もございますので、そういったものは中野市の学校との合同部活という形で先行してございます。先ほどおっしゃっていただいたとおり、やはり町という枠を超えて、この中高飯水、このエリア全体を視野に入れて、しっかり連携体制をつくっていくということが、指導者を確保したりとか、様々な観点からもメリットがあるのではないかと思いますので、ぜひ他の市町村にも呼びかけながら、ぜひそういった連携体制をつくっていきたいと考えております。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） よろしくお願いをいたします。

次に、スポーツ・文化活動後援会の補助金を削減した経緯お聞きをしました。私も見せてい

ただいたら繰越金がかなりございました。しかしながら、先ほどのこの部活移動と一緒に、やはり、これは中学の懐ですから、町が言って、こういうふうに使えとは言えないんですけども、町からも70万円今まで出資をしていたんですから、もう少し用途について協議をしていただきたい。

というのは、やはり中学の部活動お金がかかります。やはりこの繰越金をもっともっと、これは先ほども申し上げた懐がそちらなんですけれども、もう少しちょっと指導ができなかったのかなと思っております。また、後援会の補助金なんですけれども、地域の一般の方からも出ているんです。PTAじゃなくて一般の方も支援をしているんですから、やはりその辺もしっかりお金を使えるようにしていただきたいと思っております。

多分、町長におかれましても、山中のスキー部で、その頃はかなり、こう言っちゃうと失礼ですけども、潤沢に支援をいただいたと思っております。その辺町長、過去を思い出しては失礼ですけども、いかがでしょうか。

議長（湯本晴彦君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 議員のおっしゃるとおり、僕が中学生だった頃は7クラスありまして、スキー部もアルペンだけで60人を超すという大所帯でしたし、様々な父兄が当時も関わって夏にニュージーランドのエクステンジとかありましたんで、本当に今思い出してもすごいいい頃だったんだろうなと思えますが、もう今は現状は違いますし、引き続き町としましてはスポーツクラブに対しての支援も含めて、部活動の地域移行というものは非常に重要課題だと思っておりますので、そこを進める上で町からの支援とは絶対的に必要条件だと思っております。

この後援会への費用を止めたという件に関しましては、いろいろな理由があつてこういうことをやっていますが、先ほど教育長がおっしゃったように、予算計上はしていますので、また必要であればもちろん支出することにはなるとは思いますけれども、その辺の中学校の先生たちの働き方改革を進める上で、あまりこちらからああしろ、こうしろとも言えるところではございませんので、しっかりとその辺は学校と、中学校や小学校と話しながら、今後スポーツクラブもまだ立ち上がったばかりで、中学校、小学校からの部活動をどうやって受皿をつくるのか、どの種目が受皿として必要なかというところまで今議論の最中ということですので、町としましてはしっかりとそこが受皿になれるような体制づくりを後ろから支えるという形で考えております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） 中学校の部活動はスポーツに限らず、文化、本当に子供たちいろんな面で、私は手前みそで申し訳ございませんが、野球部にいたんですけれども、娘は吹奏楽でした。やはり中学の部活動で人間力をつくっていくには大変いいと思っております。なくてはならないものだと私は思っておりますので、ぜひとも支援をしていただきたいと思っておりますが、よろしく願いいたします。

こんな思いを申し上げましたが、教育長、どうですか。

議長（湯本晴彦君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） ありがとうございます。

スポーツ・文化活動の後援会につきましては、基本的には自主自立的な活動の精神というのは尊重したいと思うんですが、さっき議員ご指摘のとおり、こちら側、教育委員会がもう少し積極的にアドバイスなり、そういったことをしながら、より効果的にといいますか、子供たちの活動に有効にこの資金が使われるような、そういう体制を共に一緒につくるというような姿勢を示したらよかったのかなということは反省でございます。ですので、今年度はそういったことで後援会の皆様ともしっかり対応しながら、今年度の予算もしっかり有効に活用できるように、また協議を進めさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） おおむね私、1時間がたってしまいました。まだ4分ございますけれども、おおむね1時間で閉じたいと思っております。

最後に、久保田敦副町長と平澤岳町長にお聞きしたいと思っております。

初めに、久保田副町長におかれましては、今議会、私の一般質問多分目を通されたと思います。白鳥議員はこんな質問をしているのかと思われるんですけども、それはさておきまして、日々理事者という立場で管理職と職員の調整役、相談役、また助言をされておられると思っております。そんな中で今後の、副町長に申し上げては失礼ですけども、1年間おやりになってこられましたんで、今後の立ち位置、庁舎内見えたとは私は思っておりますので、立ち位置について、ご所見をいただければありがたいと思います。

議長（湯本晴彦君） 久保田副町長。

副町長（久保田 敦君） ご質問ありがとうございます。

それでは、白鳥金次議員の質問にお答えしたいと思います。

1年2か月、私、この町にお世話になっておりました。日々、いろんな方のお話を聞きながら、そしてまた時には現地に赴かせていただきながら、見せてきていただいたつもりです。またこの春は大規模な組織改正があるということで、また、ベテランの職員も退職、定年延長という形で残る職員もおりましたけれども、そういったある意味非常に大きな激変期、過渡期になっていると認識しているところでございます。

質問の答弁の相談にも、町長へのレクチャーのときにも同席をさせていただきまして、私、気をつけていることは、特に質問に対してはしっかり質問に答えるように、端的にということをは心がけているつもりでございますし、あと、特に教育委員会の部分につきましては、地方自治の観点の中でそれぞれの立ち位置、どこをつかさどっているのかというのをしっかりわきまえながら答弁をしなければいけないということは、感じているところでございます。

私の立場としては町長を支える身ということでありますので、基本的にはその立場の中でおるわけでございますけれども、そういった中で、町長部局の各課長さんとはしっかりとこれか

らも連携をしながら、まだまだちょっと私力不足の面があつて、まだまだ頼りないところもある。それはしっかり自覚をしているところでございますけれども、よりまた深く勉強をしながら、各課長ともしっかり手を携えていきたいと思っています。

また、教育委員会はちょっと別組織にはなっておりますが、それはそれとして、同じ組織の職員でありますので、必要に応じてしっかり相談には応じながら、共によりよい町をつくっていただけるように、また精進してまいりたいと思っておりますので、また議員各位にもいろいろな意味で叱咤激励をいただければと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございます。

議長（湯本晴彦君） 白鳥議員。

13番（白鳥金次君） 久保田副町長、熱いお心をお持ちで大変私うれしく思っております。

次に、平澤町長におかれましては、冒頭にも申し上げました。これからの3年間、私、町長ご自身、オリンピックということで非常に私尊敬を申し上げます。本当に何というんですか、経験されたということは、知力、体力、全てを兼ね備えていないとあの舞台には立てないと思っております。そこまでのご努力がございまして、今回町のために手を挙げられ、多くの町民からご支持をいただきました。

改めて、これからの3年間、たっぷりございます。どのような町政運営をされていくのか、また改めてこの山ノ内町をどんな町にしていくか、目指していくのか、その思いをお聞きして私の質問を終わりたいと思ひます。

議長（湯本晴彦君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 全部一生懸命答えると多分30分ぐらいかかっちゃうんですけども、手短にお話しさせていただきますと、議員のおっしゃるとおり、今、1年少したちまして、ようやく私もこの仕事が大分分かるようになってまいりました。

もともと私自身、町長になりたいわけではなくて、この町の問題解決をしたいという思いで帰ってきました。私自身の仕事もともと、選手の時きもそうなんですけれども、しっかりと選手としてワールドカップで優勝するためには、メダルを取るためには、上位に入るためにはどうしたらいいかということ日々考え、実践し、トライ・アンド・エラーを繰り返す仕事で選手時代はやっておりましたし、その後、選手やめた後は、マーケティングやイベントの仕事をするときも、問題解決のために、例えばですけども、某飲料メーカーさんが何かへんてこりんなイベントをやりたいと言ったときに、どうやったら問題解決して彼らのやりたいことを具現化するかということを考えてまいりました。

今、町としても同じようなことをやっております、学校のことにしても様々な細かいところに関しましても、観光面でも問題解決、そしてさらによくするためにはどうしたらいいかということ365日、日々考えるということが仕事だと思っております、本当にこの町、選挙のときには、短く言葉を選ぼうということで、孫たちが帰ってきたくなる町という形でお話させていただきましたけれども、若い方たちに魅力だと思ってもらえるような、特に若い家族の

方がこの町で子供を育てたいですか、この町で商売したい、この町で生きていきたい、こういうところに住んで仕事をしていきたいと思ってもらえるような環境づくりというものを、町はつくっていかねばならないんだということを改めて感じております。

ただ、この町は、非常にポテンシャルが高いものがたくさんありまして、志賀高原というスキー場を含めて、山もそうなんですけれども、非常にすばらしい自然環境、またスキー場環境もございます。

ただ、様々な要因でほかの観光地から少し遅れを取ってしまったりしているところもございますので、しっかりと町全体で一致団結して、一つの町として、もう私としましては、東西南北はあまり関係なくて、山ノ内町一つとして、須賀川から菅、佐野沢、そして志賀高原まで一つの山ノ内町として、しっかりと町民のシビックプライドと言いますけれども、町民の一体感をつくり出して、我々のこれからより厳しい局面に立たされるであろう社会状況、特に今、本当に海外はインフレが強くなってきて、さらにお金持ちになっていっていると。日本はどんどん価格差でそれこそあちこちで問題になっていますが、土地が買われて問題になるですとか、様々なことが起きていますけれども、そういう今までなかったような課題に対して、しっかりと我々は解決策を考えなければいけないというところ です。

私としては、これまで以上にしっかりと問題解決を道すじを見つけながら、この町が本当に住みやすい町になって、若い人たちから選ばれる町になるよう全力を尽くしていきたいと思っておりますし、また、その過程では議員の皆さんからもしっかりと意見をいただきながら、逆に私1人のブレンではなくて、ここにいる130人以上の職員のブレンと13名の議員のブレンも含めて、これだけのブレンがあれば、様々な社会問題も解決できると信じておりますので、しっかりと解決して向かっていきたいと思っております。

ありがとうございます。

議長（湯本晴彦君） 13番 白鳥金次君の質問を終わります。

ここで議場整理のため、午後2時半まで休憩します。

(休憩)

(午後 2時17分)

(再開)

(午後 2時30分)

議長（湯本晴彦君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議長（湯本晴彦君） 3番 小林仁君の質問を認めます。

3番 小林仁君、登壇。

(3番 小林 仁君登壇)

3番（小林 仁君） 3番 小林 仁、創門会です。

昨年6月から1年たちまして、一体自分が何ができたのかと振り返ってみても、まだまだ右も左も分からないことがあって、2年目までは新人でいいとアドバイスをいただいたことがあ

りますので、自身にとって都合のいいアドバイスだけは聞いてこの1年頑張っていきたいと思
います。

先日、山ノ内中学校の軟式野球部の試合を応援に行ってきました。自分の息子が小学校6年
生の代に監督やらせていただいた少年野球の子供たちが皆中学校に進んで活躍している中学校
3年生の最後の応援に行ったわけなんです、体が大きくなって、非常に野球を楽しくやって
いる中でも、当時、教えていた時に起こすバントの失敗であったり、走塁の失敗であったり、
捕球のミスであったり、体が大きくなって投げ方が変わらず、打ち方が変わらず、懐かし
くもあり、また人間はこんなに、人のうちの子供はこんなに大きくなるんだと思うような部分
ありまして、私も町民の皆さんから4年間で少しでも大きくなったな、でもああいうミスはま
たするんだなというふうに、見守っていただけるような存在になれたらと思っております。

通告に従い、質問させていただきます。

まず、1、ふるさと納税の現状と今後の課題について。

(1) 当初の取組に対しての成果はということですが、道の駅に自販機を置いたりとかとい
うような、当初説明をいただいていたところでありますけれども、そういった取組の成果、ど
ういったところに失敗や成功があったのか、お聞きしたいと思います。

(2) 課題やその可能性、その中で生まれた課題、または4項目大きく分けてあるかと思
いますが、その4項目に分けて使っている今現状でのふるさと納税の効果的な使い方など、具
体的な話をお聞きできたらというふうに思っています。

(3) 番目、目標値、就任当初より10億円ですとか、倍増とかいう数字、展望があったか
と思いますが、その目標値、実際1年進めてみて、どのように修正されるのか。またはそのま
ま当初の予定どおりいくのかということをお聞きしたいと思います。

2、町長のトップセールスについて。

(1) 現時点での成果ということで、オーストラリア、フランス、それから国内であれば美
唄、そういったところ精力的に行かれていますと思いますが、その辺での成果をお聞きした
いと思えます。

(2) そういったトップセールスについて、私自身非常に尊敬している部分でありまして、
精力的に行っていただきたいと思いますが、(3)と重ねまして、町内の行事に対しての参加
率、または出席の仕方、そういったところ、私自身町民の皆さんからかなり意見をいただ
いていただきますので、具体的に改善点等も含めてお聞きしたいと思います。

3番目、旧上林スキー場の有効活用についてということですが、(1) オールシーズンで利
用できる敷地として検討はということ、一度スキー場として活用されていた土地ですが、今
は自然へ戻りつつあって、またそこをかという話になるかと思えますが、当地の出身者として、
近くでにぎわいを見ていると、ちょっと場所としてはもったいないかなというふうに思
いますので、何らか活用していただけないかなと。それがオーバーツーリズムを防止するとい
いますか、これからは来ていただける方も含めて、整えていく環境じゃないかなというふう
に思

ますので、お聞きしたいと思います。

(2) 検討課題とすれば、そこを活用するには何があるのだろうかということで、細かいところをお聞きしたいというふうに思います。

再質問は質問席で行います。

議長（湯本晴彦君） 答弁を求めます。

平澤町長、登壇。

(町長 平澤 岳君登壇)

町長（平澤 岳君） 小林仁議員のご質問にお答えします。

大きな質問1のふるさと納税の現状と今後の課題について。

(1) 当初の取組に対しての成果はについてですが、小田議員のご質問にお答えしたとおり、令和5年度の寄附件数は6,567件、寄附額は3億8,867万4,000円で、令和4年度に比べ、件数は474件、7.7%増、金額は4,842万2,000円で14.2%の増となりました。

新たに、現地決済型のふるさと納税、旅先納税を導入したことに加えて、主力ポータルサイトへの広告を実施したことによる成果と考えます。

また、返礼品の提供事業者や返礼品の種類を増やしたり、SEO対策でポータルサイトでの商品説明のページの内容を改善したりするなど、日々の積み重ねも今後の結果につながるものと期待しております。

令和6年度については、事業者の都合により一部返礼品のポータルサイトの掲載が遅れ、4月時点での寄附金額は昨年度に比べて約9%少なくなっておりますが、新たに企業版ふるさと納税として1件のご寄附を頂いております。

(2) の課題やその可能性はについてですが、令和5年10月の国の基準の改正で、経費を5割以下に抑える必要があることや、返礼品そのものや送料の値上がりなどにより、寄附額を値上げする必要性が出てきております。これは返礼率を下げることになるため、寄附者側から見ると、お得感が減ることになります。インターネットショッピング感覚でふるさと納税を利用する層の新規取り込みが困難になるほか、リピーターを失う可能性があります。一方、ガバメントクラウドファンディングを活用し、寄附金の使い道を明確にすることにより、プロジェクトの内容に共感を持っていただける方からの寄附を取り込むことが可能と考えます。

ふるさと納税が具体的に町のどんな課題解決に使われたかを町内外にアピールすることも必要だと考えております。農産物に関しても桃、サンフジ、各5キロはJAながの志賀高原支所の受付上限に達しているため、新たに返礼品を提供いただける事業者を増やす必要があります。一方、サンフジ以外のリンゴ、シャインマスカット、巨峰、プラムなどは寄附申込み件数がJAの受付上限に達していないため、さらに申込みを増やすためのPRが必要と考えます。

旅先納税に関しては新しい仕組みでありますので、定着するまでに数年が必要と言われております。その間に町内で返礼品の山のギフトを使える事業者を増やし、寄附者にとってより便利にしていくことが必要と考えております。

(3)の目標値を改めて伺いたいについてですが、私が昨年公約に掲げ、令和5年3月議会の答弁で申し上げたとおり、当時のふるさと納税寄附受付実績から倍増となる7億円を目指したいとは思っております。

続きまして、大きな質問2の町長のトップセールスについての(1)現時点での効果はと、(2)の今後も精力的に行うのかの2点についてお答えします。

昨年、私はオーストラリアとタイにセールスに行かせていただきました。今年に入り、先月もオーストラリアのシドニーで開催されたスノートラベルエキスポに行きまわりました。毎回感じるのですが、地獄谷野猿公苑の知名度、正確には温泉に入る猿が日本にいるということはほぼ誰もが知っており、その上一度は行ってみたい、既に行ったことがあるという方々ばかりでした。それに比べて、山ノ内町という知名度や町のほかの観光地の名称、果樹栽培が盛んだということなどは、温泉に入る猿に比べると知名度がはるかに下がるのが現実です。

今後、オーストラリアや東南アジア、そして欧米にも日本旅行に興味のある方々に、スノーモンキー以外の山ノ内町の観光地や町自体のことを知っていただき、冬だけではなく、夏の山ノ内町のことも知っていただくことが必要と感じており、引き続き海外でのPRは必要と考えております。

余談ですが、先日、オーストラリアで聞いたのですが、オーストラリア人の旅行で行きたい先ナンバーワンが今までバリ島だったようですが、今年は日本が一番になったそうです。スノートラベルエキスポでも志賀高原と山ノ内町のブースの向かい側がコロラドのアスピンのブースでしたし、バイルリゾートやコロラド、カナダのウィスラーやバンフなどもブースを出しておりましたが、朝にイベントがオープンすると同時に、我々のブースや白馬野沢温泉の長野ブース、北海道ブースなどに人が殺到して、北米ブースにはあまり積極的に人が流れておりませんでした。

ドル高の影響があるようですが、日本全体でこれからもインバウンド客は増加傾向が続くと感じております。今回、オーストラリアで感じたのは、ひいき目に見ても、日本のブースの中で山ノ内ブースが人気だったように感じています。その理由は、現地でも何人かのオーストラリア人に聞いたのですが、スキーだけでなく、文化的な側面も体験したいとのことでしたので、山ノ内町には温泉郷もスノーモンキーもあるので、とても興味を持っていただき、イベントの夜には一緒にアテンドいただいて、渋温泉や湯田中の旅館さんや志賀高原のホテルさんに早速エージェントからの問合せが入ったそうです。

現地のエージェントさんへのセールスイベントの際は、長野県観光機構としてもグリーンシーズンがテーマでしたので、私も夏の山ノ内町を中心にプレゼンテーションをさせていただき、早速エージェントさんからは、ハイキングや自転車などを中心に、プログラム商品開発をさせていただきたいと言われました。オーストラリア人はアウトドア好きの方が多いとのことですので、夏の山ノ内町も響くそうです。

トップセールスの効果というのは、すぐに目に見えて出てくるものではないと考えておりま

すが、志賀高原プリンスホテルさんからは、今シーズンの外国人スキー客がコロナ前の2018年にほぼ戻ったと聞いております。

オーストラリアからのスキーヤーについては、昨年対比で149%で、昨年のオーストラリアセールスの効果が出たのではないかと思います。この数字はコロナ前に、西、東、南館の3館営業していた頃とコロナ明けの現在は西と東のみで、南館は団体対応になっていると聞いておりますので、全体の数としては分母が減ったようですが、その中でもオーストラリア人スキーヤーが増えたのは、オーストラリアマーケットがアクティブな証拠かと思えます。今後もインバウンドスキーヤーは全体的に増加する傾向になると考えております。地獄谷野猿公苑もコロナ前を上回ったとのことでしたし、そのうち7割は外国人とのことでした。昨年夏にシドニーでお会いしたオーストラリア西部観光局の局長も、毎年志賀高原にシーズンに来ているけれども、昨シーズンもご家族でいらっしゃったそうです。

基本的に観光地はセールス、PRをしなければ知っていただけませんので、やればやるだけそれなりに効果が出ると判断しております。タイのCGM48に観光大使になってもらっているのも、経済成長しているタイからの観光客が増えることを見越しているのと、特に4月はタイの休みが多いことで、4月のタイ人観光客が増えることを期待しております。東南アジア各国の経済発展のスピードやそれぞれの国の人口の年代分布などを分析すると、10年後に我々のセールスタargetがタイからインドネシアやベトナムになるだろうと予測をしておりますが、当分東南アジアではタイを中心にPR展開をしていってよいかと思っております。

同じトップセールスでも角度の違うトップセールスとしては、先月東京出張の際に、何人かの投資家やメガバンクの役員などにもお会いしており、企業誘致や町内への積極投資の相談をさせていただいております。私のトップセールスという仕事の認識は、私がどこかに行って、山ノ内町をPRするだけではなくて、経済的な効果を出すための全ての営業活動がトップセールスだと認識しております。

また、こちらも違う角度ですが、ゴールデンウィーク中に山ノ内まちづくり観光局も人手不足ということもあり、スタッフのお昼休憩中の時間帯に私自身がインフォメーションセンターに数時間立って、外国人のお客様を案内させていただきました。我が町は観光の町ですので、インフォメーションセンターのスタッフも道の駅のスタッフも、もっと言えば役場の職員や町民一人ひとりも皆が立場関係なく、山ノ内町の魅力を伝えるセールス活動を日々すべきだと考えております。

(3)の町内の行事はというご質問ですが、私も可能な限り町内の行事には顔を出させていただきます。あくまでも一例ですが、先日も弥勒地蔵の例祭に参加させていただきましたし、豆まきやソフトボール大会の始球式、保護司会の総会などにも参加させていただいております。もちろん声をかけていただいた全ての行事に出席できているわけではありませんし、スケジュールの都合上、どうしても参加できず、副町長に出席してもらったりしている行事もありますが、時間の許す限り参加させていただいております。

先日、西小学校の運動会には伺いませんでしたが、東小学校の運動会には伺えるようにスケジュールを組んでおりましたが、同時に南小学校の運動会には顔を出せませんでした。

役場も組織ですので、しっかりと組織で分担して、必要などころに必要な理事者や職員が参加させていただくことで、町の行事が滞りなく進むように、今後も対応させていただきたいと思っております。

大きな質問3の旧上林スキー場の有効活用について、①オールシーズンで利用できる敷地として検討はの(2)検討課題とすれば何があるかのご質問にまとめてお答えいたします。

既に25年以上も前になりますが、上林スキー場はオリンピック初のスノーボード競技が行われた場所で、私も中学生の頃に部活の練習でも使っておりました。スノーボード競技は当時まだ始まったばかりでしたが、今は平野歩選手の活躍など、日本でも人気のスポーツになっております。

今の山ノ内町はオリンピックのレガシーを生かし切れていないと感じております。しかし、旧上林スキー場の件は私も過去に調べてみたり、リゾート開発さんと話したことがありますが、現在、志賀高原リゾート開発さんとしては、借地契約を終えて地主さんたちに返還したと聞いております。私も何かできないか、少し検討しようと思ったことがありますが、地主さんが複数いることなどもあり、難しいと思うとアドバイスを受けたので、現在は検討自体が止まっております。

小林仁議員が地元ということですので、何かアドバイスや町としてもできる内容がありましたら、ご教授いただければと思います。

(2)の検討課題とすれば何があるかですが、まずは何がやれるのか、何が効果的か、町がやるべき事業か、民間がやるべき事業か。事業的に採算が取れるのか、事業スタート資金や事業主体をどうするのか、そして地主さんとの交渉や折衝、権利問題などが問題になるかと思っております。

以上となります。

議長(湯本晴彦君) 再質問を認めます。

小林仁議員。

3番(小林 仁君) すみません。3番の上林スキー場の有効活用についてというところからですが、私もこれを具体的にこのような形でこの方と交渉すればというところまで持ち合わせていませんので、またいろいろと話を聞いていきたいなと思っておりますが、毎月15日に上林組で集まりがありまして、お呼びいただきながら、お話を聞いていますと、もともとある場所ですので、活用できるんじゃないかということで、地元の皆さんも土地の所有者ではないですが、いろいろと協力していただけないかと思っておりますので、またその辺お時間あれば、皆さんからお聞きして町長にお伝えしたいかと思っております。

旧キンメルレストランから、下に地獄谷に下っていく遊歩道も元々あることから、行きは徒歩で上がっていただいて、帰りに先ほど、トップセールスの中でもありましたタイであ

るとか、それからシンガポール、マレーシアというところのインバウンドのお客様が、あまりスキー目当てじゃなく、雪と触れ合いたいということが目的でもあったりするということを多方面からお聞きして、例えば行きは歩いていくんだけど、帰りはそりなんかでちょっと降りてこられるような大きな開発をしなくても生かせるものではないかなというふうに思っていて、何かバス停に行くまでの間に、そういう雪に触れるアトラクションという形で捉えられれば、それはそれで新しくリフトを架けたりだとか、大きな投資をしなくてもできる可能性があるんじゃないかと考えたりしまして、一つご提案といたしますか、お願いと申しますか、検討していただければと思っています。

それから、ふるさと納税の現状と今後の課題についてというところでお伺いしたいんですが、町長、当初美唄市に、もともと成功事例があるということで行かれていたかと思いますが、その例なんかを特に具体的に何か活用した、今生かしていただいているところとか、ありましたら教えていただきたいんですが。

議長（湯本晴彦君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 昨年、美唄市の市役所からうちの職員2人が2日ばかりかな、レクチャーを受けまして、楽天の使い方ですとか、様々な広告の有効的な使い方などをお聞きして、それを実際すぐに今シーズンに反映させたと聞いていますので、私ちょっと細かいところは、私はその会議に参加しておりませんので、どういうことを聞いたか分かりませんが、様々な、そこはノウハウになりますので、ノウハウを聞かせてもらって対応したと報告を受けております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 小林仁議員。

3番（小林 仁君） ではすみません。未来創造課長にお聞きします。

今、担当の職員はレクチャー等で交流されているということですので、もし具体的に何か生かされているところがあったら教えていただきたいのと、具体的にこの1年進めてきて、約4,800万円ぐらい、14.2%増というところで、これが当初の予定よりも緩やかな伸びなのか、それとも思っているよりも伸びていないのか、想定よりもかなり急激に伸びたのか、ちょっとその辺の分析を教えていただければと思っています。

お願いします。

議長（湯本晴彦君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えいたします。

まず、美唄市との研修の成果といたしましては、昨年4,800万円ほど伸ばしたというところの中で、一つはSEO対策、例えば検索エンジンの最適化という意味を持つそうですが、寄附希望者がポータルサイトで、リンゴ、桃などの検索をした場合に、山ノ内町のコンテンツが上位に表示されるよう工夫をしたことが一つ上がります。もう一つが、先ほど町長からもありましたが、広告ということで、ポータルサイト2つほど使いまして広告をしたところ、1つは、消費額35万円に対しまして寄附額が620万円あったと。もう一つについては100万円ほどかけて

740万円ほどの収入があったということで、確認をさせていただきます。

あと、どれだけ伸びたかということに関しましては、先ほど町長から7億円という目標を示されておりますので、現時点でどれだけ伸びたということに関しましては満足せずに、これからさらに努力をしてまいりたいと考えております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 小林仁議員。

3番（小林 仁君） その中でもう1点、課題やその可能性はというところも含めまして、シャインマスカット等果樹、単純にJAさんも含めてというところから個選の方々へ広げて、近隣の市町村で成功している事例なんか追いかけると、そういうことも考えられるのかなと思うんですが、それが簡単でないのか、そこが今後の可能性の中にあるのか。またそれにとって代わって何か違うサバ缶でしたか、サバタケ缶でしたか、あのような形で、違う何か商品が考えられていくのか、ちょっとその辺の見えている部分で教えていただければと思います。

議長（湯本晴彦君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えいたします。

先ほど申し上げたとおり、7億円に向けて様々なことを始めたところでございます。新しい商品を作る者、あと農家さんを増やしていくこと、そういった事業者さんを増やしていくこと、それぞれ何でも貪欲にやっていく必要があるかと思っておりますので、現時点では係員共々頑張っていますとお答えとさせていただきます。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 小林仁議員。

3番（小林 仁君） 近隣のいいところ、隣の芝は青く見える、いいところばかり見てしまうと成功事例で言うと、先にお聞きしたのが、製品化されなかったといいますが、はじめた果物を詰め合わせることによって、ふるさと納税が伸びていったんじゃないかという近隣の自治体もあつたりだとかという話をお聞きしますと、難しいことも当然あるのは分かるんですが、ちょっとしたアイデアで何か起爆剤になることも、当町ではポテンシャルとして持ち合わせているんじゃないかなと思いますので、またいろいろと私たちも調べて、町民の皆さんからお聞きして、提案できればと思いますので、やり取りできたらと思っております。

よろしくをお願いします。

2番目の町長のトップセールスについて、ちょっとお伺いします。

現時点での成果として、すぐに確かにこうだというの見えない、当然だと思うんですが、そこまでそれを期待しているわけではなくて、現状、今までの町長の活動よりも新しく平澤町長になられてから、かなり海外への出張等増えているところから、町民の皆さんも知りたがっているところだと思いますので、また何かしら、しろくま通信とかそういったところでも細かくいろいろな我々の知り得ない海外の事情とか、報告いただければと思っております。

その中で、一つ私の個人的な感覚なんですけど、教育に関しても交流が積極的に行われるんじ

やないかなと期待をしておりました。それがなされていないということではなくて、先日出てきました海外留学に対する補助金等も含めて、やはり町長が行かれた友好都市と提携するような自治体と子供たちがオンラインではなく、実際行き来しながら交流するようなそういった機会を具体的に進めていただけることが今後あるのかどうかというところをちょっとお聞きしたいんですが。

議長（湯本晴彦君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） そうですね。

去年伺ったベイル町でも、子供たちの交流に関しては具体的に進めようということで合意しまして、それをこちらに持ち帰ってきて、教育委員会にも相談しながら、担当課と教育委員会と学校と話しながら、どういうことができるかということを検討しているところだというふうには認識しておりますし、先日言ったサンジェルベも非常に学校同士の交流に関しては前向きというところで、とはいえ、もちろんリアルの場で行き来するのが将来的にはできると思いますが、そんなにすぐにぱぱっと行けるわけでもないで、それをまず準備していくというのと、準備の過程でまずオンラインで交流をスタートして、まず子供たち同士で山ノ内町の紹介をしたり、向こうのサンジェルベの紹介をしたいみたいなどころからのスタートになると思っていますので、交流に関しましてはもちろん、リアルな交流を目標としながら、順次進めていくために、うちの担当課と教育委員会で話し合いをしているところですので、時間はかかりますが、形になってくるというふうに思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 小林仁議員。

3番（小林 仁君） ベイル、それからサンジェルベレバン市が候補になって、中国、友好提携、この先もう少し増やしていく、何かいろいろと方向性が合致して、子供たちの交流も含めて合致していくところがあれば、積極的に友好提携を展開していきたいというような展望があるかどうか、お聞きしたいと思います。

議長（湯本晴彦君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） もちろん友好提携先と密にコミュニケーション取りながら、やり取りができる、エクスチェンジができるということであれば、そう思っていますので、私としましては、行きやすい場所、これからアクセス、町民のお子さんたちが行ってみたいところ、行きやすい場所、英語の勉強や国際交流に行きやすいような場所として考えると、南半球のオーストラリア、ニュージーランド、もしくはハワイ州などのことも視野に入れていきたいと思っておりますが、何せこれは相手先のあることですので、山ノ内町と共通課題があったりですか、コミュニケーションが取りやすいような自治体さんが出てきたら、またそういうことは考えていきたいと思っておりますが、まずは、今あるベイル、あと密雲区、そして今これから提携しているサンジェルベとのしっかりとした関係を構築して、その次のステップに向けて進みたいと思っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 小林仁議員。

3番（小林 仁君） 積極的に行っていただきながら、かつ我々としては成果を求めていかなければいけないと思いますので、随時細かくいろいろな成果をお聞きできればと思っています。技術的にどういった形があって、課題として残るのかというのは分かりませんが、フランスであつたりだとか、バイルの高級ホテルに山ノ内町のシャインマスカットが置いてあるなんていうことがこの先、未来にあるのかどうか、そういったところもちよっと楽しみにしながら、自慢の果樹ですので、そういう使い方もトップセールスの中でしていただければというような願望も持っております。

もう1点、子供の交流も含めて教育長にお伺いしたいんですが、今お話にあつたとおり、今後たくさんのところと機会があれば提携していきたいんだという町長のご答弁ありましたが、先日、出てきた海外留学の補助金に対しましては3名、今、仮の案の部分ですけれども、3名に対して予算がついてきてという形なんです、今後いろんなところに友好都市の提携先があつてということを考えていくと、もう少し予算、1人当たりに対する予算を減らして、人数を増やしていくことが適当になってくるような気もするんですが、そういったところをどのようにお考えでしょうか。

議長（湯本晴彦君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） お答えいたします。

今回の留学支援の事業に関しましては、町長ご自身の留学の経験からアイデアが出されたという経緯もあるんですけれども、事務局としましては、今議員がおっしゃったように、できるだけ多くの子供たちにチャンスを広げると。公平性であつたりとか、そういった観点は大事にしていきたいと思っております。実際に予算の枠というものも当然限界もありますので、その中で最大限、一人でも多くの子供たちが自分の未来に向けてチャレンジできるような、そういう環境づくりにつながる事業にできたらと願っております。

以上です。

議長（湯本晴彦君） 小林仁議員。

3番（小林 仁君） トップセールス、観光だけではなく、農業だけでなく、教育にもということ考えていくと、関連してそのようなことも私なんかは考えていきたいと思っております。

個人的な話になりますが、自身もそういった投資を子供にしてきて、やはり考えるところとすれば、自分たちも苦勞して出していますし、どなたかには厚くサポートしていただける、そういう人間形成も含めて、それが教育じゃないかなと思っておりますので、ただただ満額この人にとということの子供に本当に背負わせていいのかな。それだけの大金をかけて、潰れたときに、どうやってその子はその後の人生、生きていくのかなということも含めて、もう少し金額的なもの、それから細かい要綱の部分、現在案だと思いますが、しっかりとしたものになるようにしていただけた上で、トップセールスがまた生きてきたりとかいう互換性があると非常

にいいのかなと思っていますので、ぜひともそういったところ、また情報をいただければと思っています。

私から以上なんで、これで終わりにします。

議長（湯本晴彦君） 3番 小林仁君の質問を終わります。

議長（湯本晴彦君） 以上をもって、本日の会議を閉議し、散会します。

ご苦勞さまでした。

（散 会）

（午後 3時02分）